

親子の関わりについて

子どもが絵本を読む割合を過去と比較すると、「いつも読む」の割合は減少し、「ときどき読む」や「あまり読まない」の割合が増加している。また親子で一緒に絵本を読む機会も減少しており、家庭での読書習慣が減りつつあることがうかがえる。

参照：「1 家で絵本を見る機会の変化」

子どもの普段の過ごし方は、ゲームやスマートフォンを利用している割合が増加しており、デジタル機器を使った遊びが広がっている。一方で、絵本やごっこ遊びなどの活動は減少している。しかし、親子でゆっくりする時間については大きな変化は見られず、家庭内での関わりは保たれていると考えられる。

参照：「2 家での過ごし方・親子のかかわり方」

保護者が子どもを育てるのに大切にしていることは、「思いやり」や「社会マナー」、「生活習慣」などであり、人との関わりを大切にしていることが分かった。また多くの子どもが習い事に通っており、男児はスポーツ、女児はスポーツと音楽や習字などの割合が比較的高い傾向が見られる。さらに、英語などの外国語への関心も高まっている。

参照：「3 子どもの習い事の傾向」「5 子育てにおいて力を入れていること」

保護者が園に求めることとしてもっとも多いのは「実体験」であり、自然体験や友だちとの関わりなど家庭では得にくい経験を期待していることが分かる。また行事や話を聞くこと、基本的な生活習慣なども重視されている。

参照：「4 保護者が園に求めるもの」

“ほめられること”については、どの学年でも「勉強・成績」に関することでほめられることが多い。一方で「家事やお手伝い」や「人に親切にしたこと」などについてもほめられていた。また、生徒児童の学年が上がるにつれて勉強に関する内容が増える傾向があり、成長に伴って求められることや評価されることが変化していると考えられる。

参照：「6 ほめられることは全学年で『勉強・成績のこと』が最も多い」

調査を始めたころと時代は変わり、スマホ・タブレットの普及、習い事をする子どもの増加があったものの、親子の会話時間はさほど変わらなかった。子ども達を取り巻く環境が変化しても、親子の時間を大切にしようという心がけている様子がみられ、今後も続くことが期待される。

子育てに力を入れていることや園に求められていることは年々変化している。家庭と園がそれぞれの役割を持ちながら協力し、子どもの健やかな成長を支えていくことが大切になってくるであろう。

1 家で絵本を見る機会の変化

(14)「お子さんは、家で絵本をみますか。」という問いに対して2008年と2023年を比較すると、「いつもみる」家庭が約10%減少。家庭での絵本読みが「習慣」になっている家庭が減ってきている可能性が見える。「ときどきみる」というスタイルが増加しており読み聞かせの頻度が減少傾向にある。「あまり・まったくみない」という家庭も微増。つまり、絵本に触れない家庭も増えており、読書格差が広がっている可能性がある。【図1-1】

質問(15)“親子で絵本を読む”習慣も年々減少傾向にあり、絵本に触れない環境の子どもたちをどう支援するかが今後の課題となる。【図1-2】

【質問内容】

(14)お子さんは、家で絵本をみますか。【図1-1】

(15)おうちの人はお子さんと一緒に絵本をみますか。【図1-2】

図1-1 お子さんは、家で絵本をみますか。(全体:2008年と2023年の比較,全体)

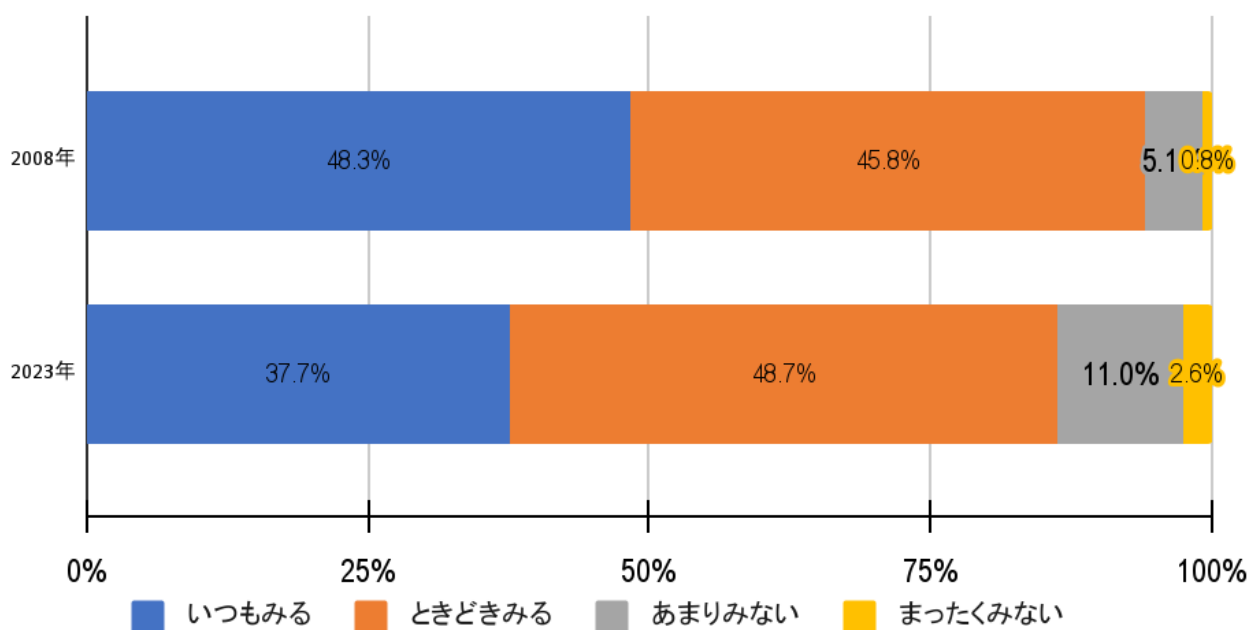
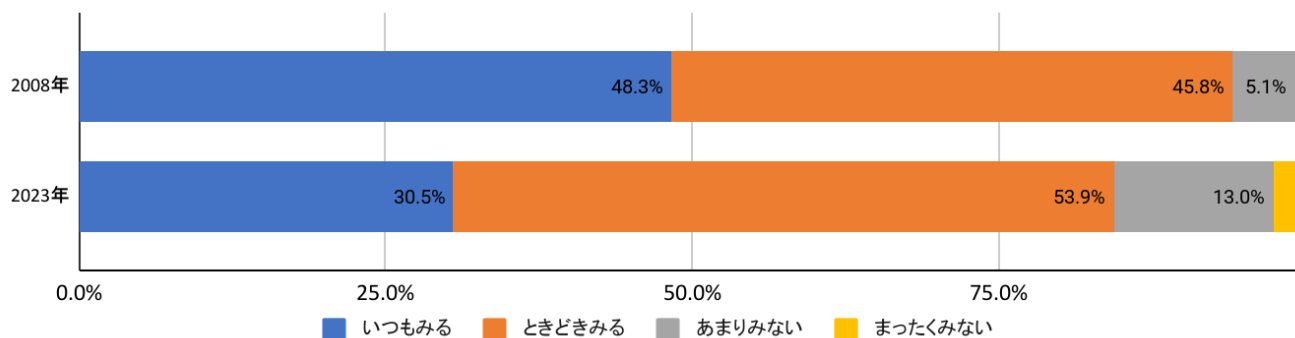


図1-2 おうちの人はお子さんと一緒に絵本をみますか。(2008年と2023年の比較,全体)



2 家での過ごし方・親子のかかわり方

(11)「お子さんは、ふだんどんな過ごし方をしていますか。」という問いの内容で特に年々変化してきているものを抜粋し、比較した。【図2-2】カテゴリーは「ごっこ遊び」「絵本を読む」「自転車乗り」「テレビ・ビデオを見る」「ゲーム」「勉強する」「スマートフォンやタブレットを使用する」に分かれている。

「ごっこ遊び」「絵本を読む」「自転車乗り」が年々減少傾向であり、「ゲーム」や「スマートフォンやタブレットを使用する」が2018年～2023年で約2倍に増加。デジタル機器の使用時間が増えたことで、子どもの想像力や対話を伴う遊びの時間が減ってきているように思われる。また、ごっこあそびや絵本など、創造的な遊びや、親や友だちとの関わりが必要な活動が減少し一人でできる遊びが増えている。

2018年以降、子どもたちにとってスマホが新たな遊びの手段として広まり、テレビ・ゲームと並ぶ主要な娯楽となっている可能性がある。一方で、(24)“親子でゆっくり会話をする時間”は、前回の調査からほとんど変わりはなかった。【図2-3】また、“親子で触れ合うことに力を入れて子育てをしている”という回答も前回とほぼ同じであった。(「5 子育てにおいて力を入れていること」参照)

タブレットやスマートフォンの使用が増えてきている現状から考え、親子でゆったりと関わる時間が減少するかと考えられたが、さほど変化がなかった。デジタル機器をうまく利用することで家事などの時間が縮小し関わりの時間が持てているのではないかと推測される。

【質問内容】

(11) お子さんは、ふだんどんな過ごし方をしていますか。【図 2-1】【図 2-2】

(24) 親子でゆっくり話をする時間がありますか。【図 2-3】

図2-1 お子さんは、ふだんどんな過ごし方をしていますか。(2008年～2023年の比較、全体)

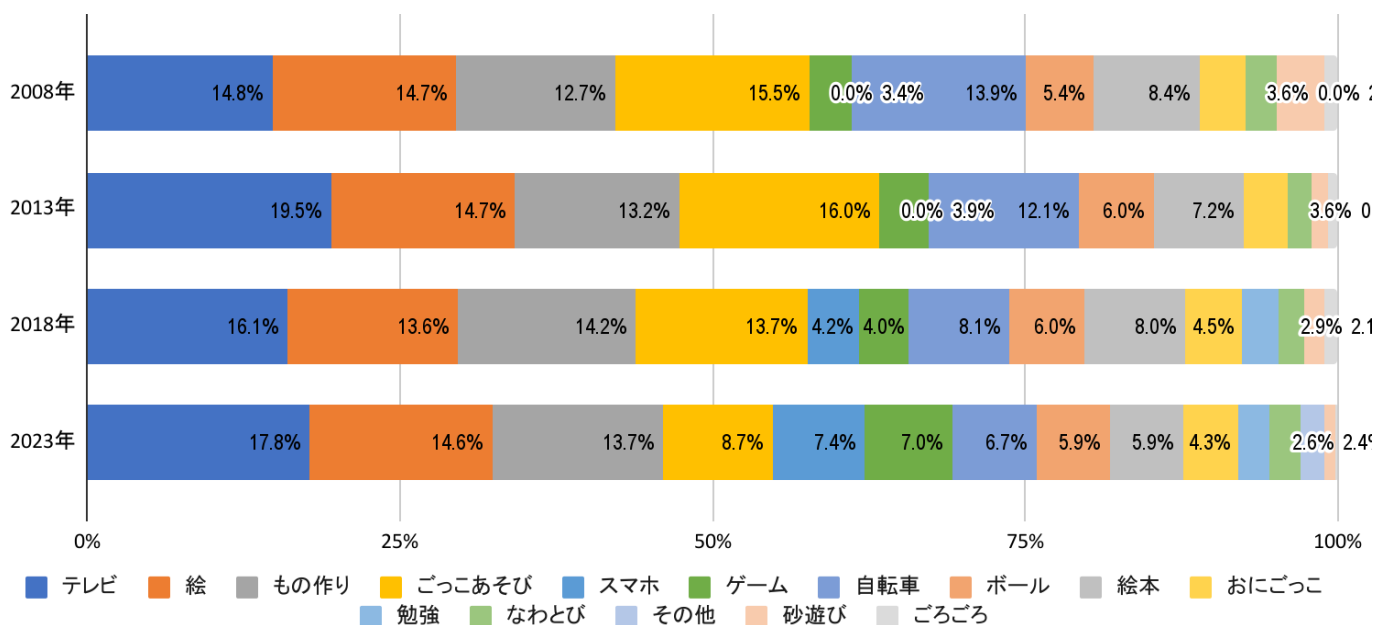


図2-2 お子さんは、ふだんどんな過ごし方をしていますか。(2008年～2023年の比較、抜粋)

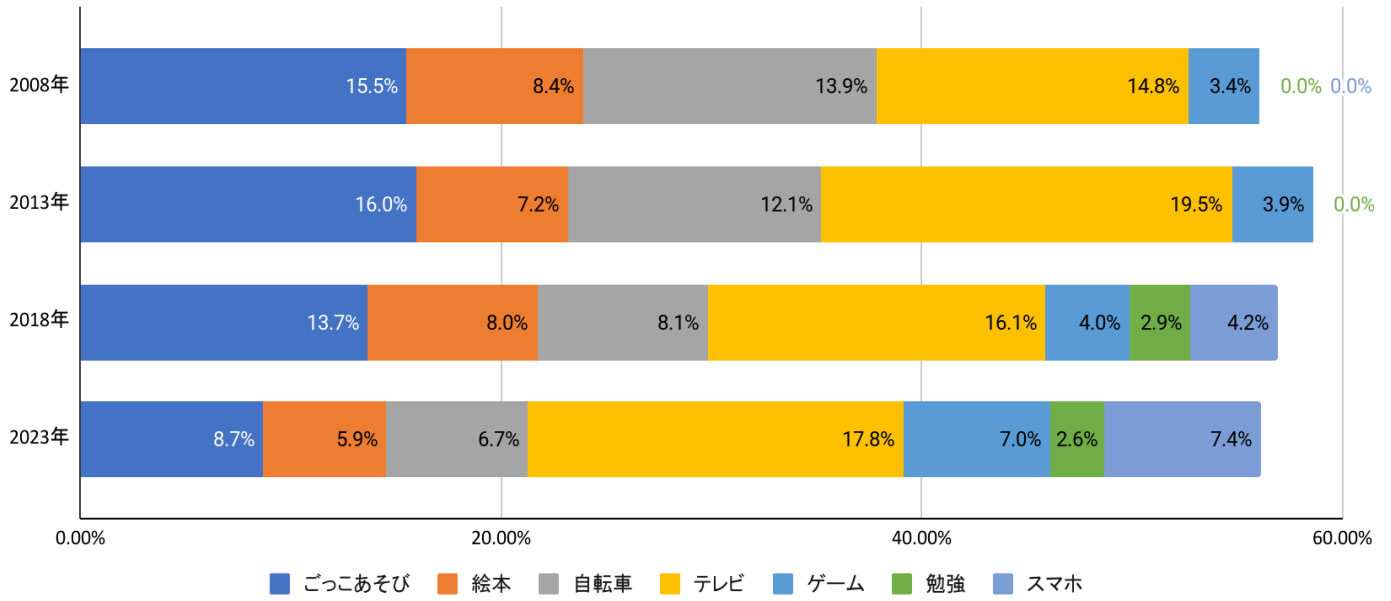
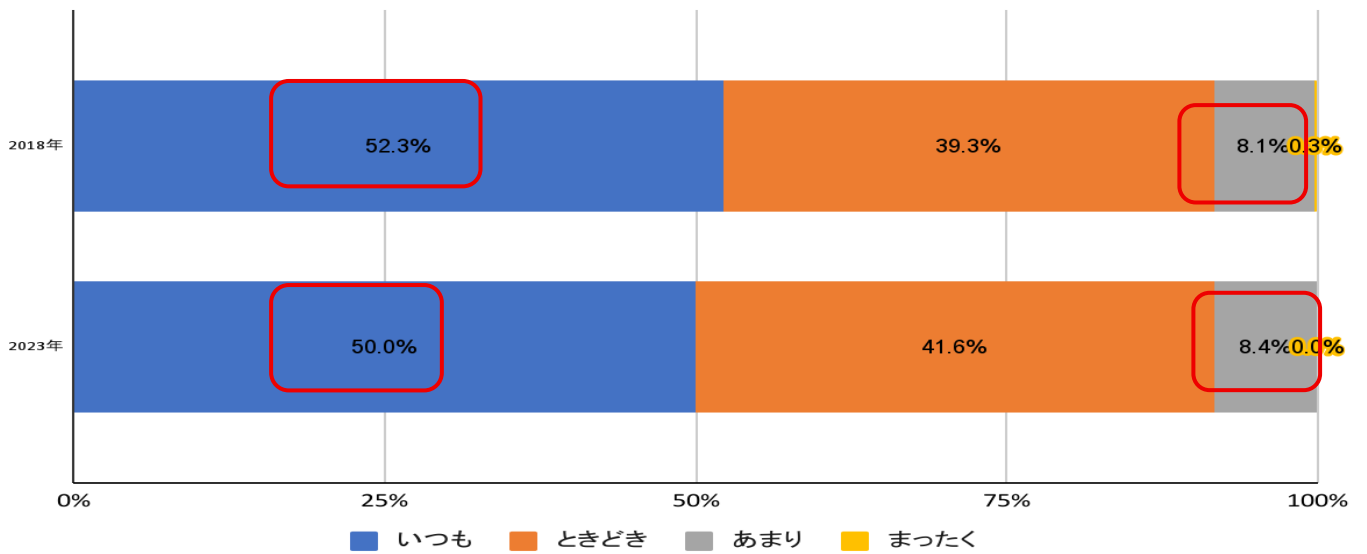


図2-3 親子でゆっくり話をする時間がありますか(2018年と2023年の比較、全体)



3 子どもの習い事の傾向

質問(18)「お子さんは、習い事に通っていますか。」から、習い事に通う子どもは非常に多く、特に女兒の方が積極的に通っていることがわかる。【図3-1】

男女で選ぶ習い事の傾向に違いがあり、男児はスポーツが多く、女兒はスポーツ+芸術・学習系などが多い特徴がある。そして、女兒ではスポーツに次いで英語・英会話が高い割合をしめている。【図3-2】

質問(19)「習い事の種類」の中で、「英語・英会話」が、2008年から年々増加している。【図3-3】

質問(25)“子育てで力を入れていること”で、「外国語」との回答が2018年に比べて「とても力を入れている」「まあ力を入れている」が約2割増えており、反対に「まったく力を入れていない」と答えた人は大きく減少している。【図3-4】

園に求めることは「英会話」や「国際理解学習」との回答も「とても求めている」「まあ求めている」の割合が増えた。保護者の外国語への興味・関心は高くなってきていることが分かる。(「4 保護者が園に求めるもの」参照)

【質問内容】

(18)お子さんは習い事に通っていますか。【図3-1】

(19)お子さんの習い事は何ですか。【図3-2】【図3-3】

(25)あなたは、どのようなことに力を入れてお子さんを育てていますか。【図3-4】

図3-1 お子さんは、習い事に通っていますか。(2023年、男女比)

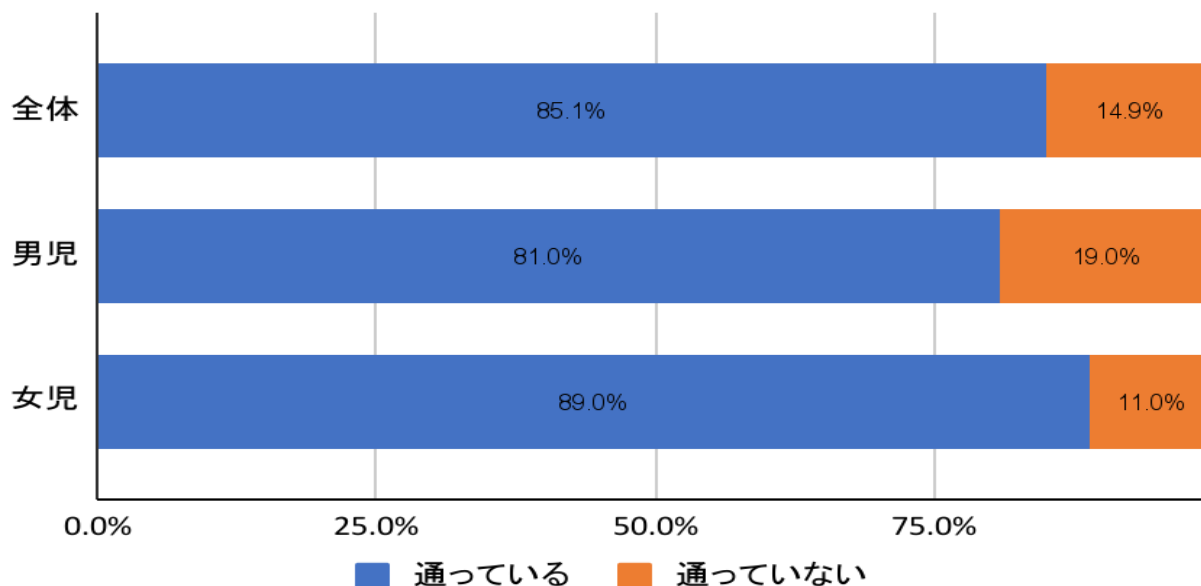


図3-2 お子さんの習い事は何ですか。(2023年、全体と男女比)

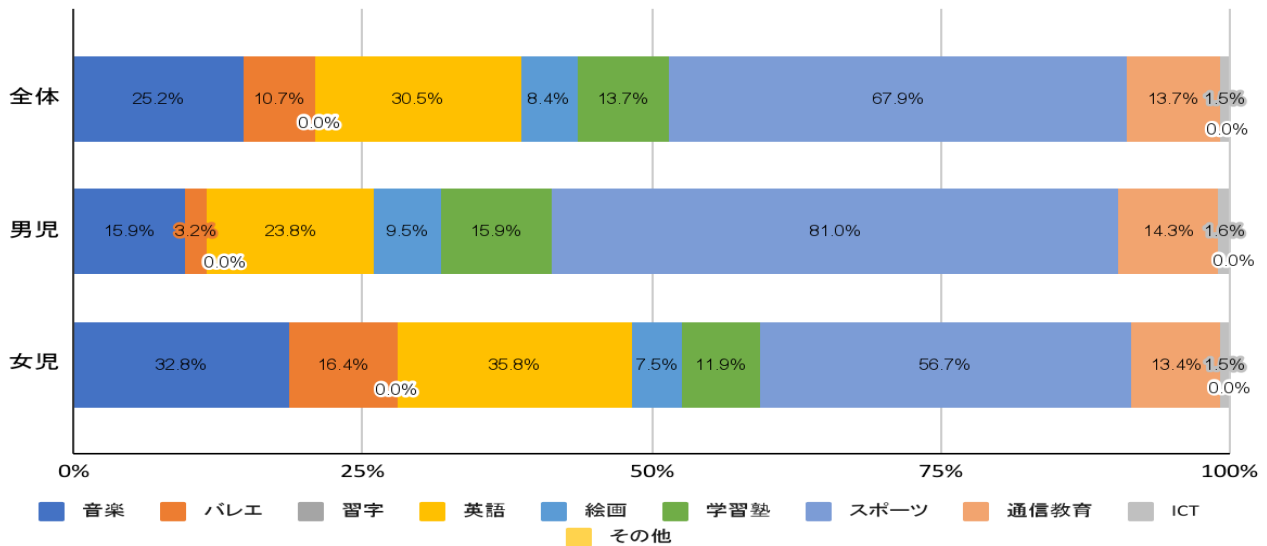


図3-3 習い事の種類(抜粋:英語・英会話)(2018年~2023年、全体)

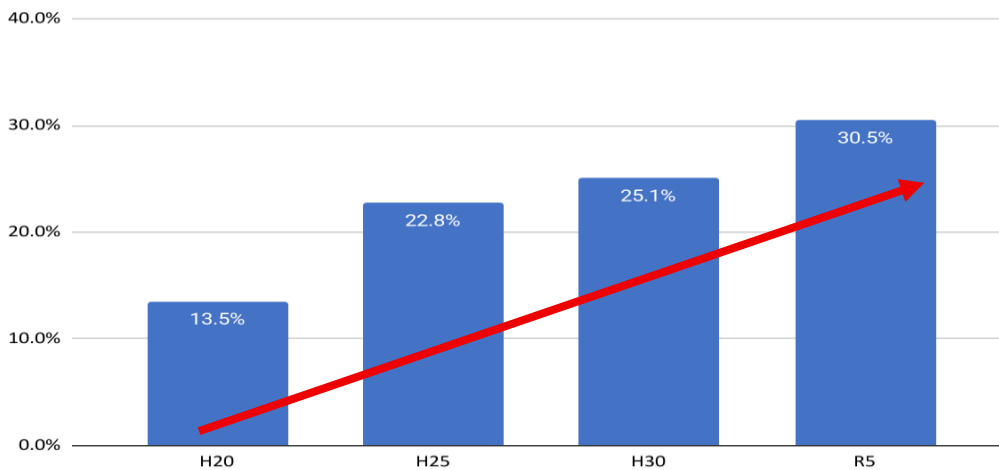
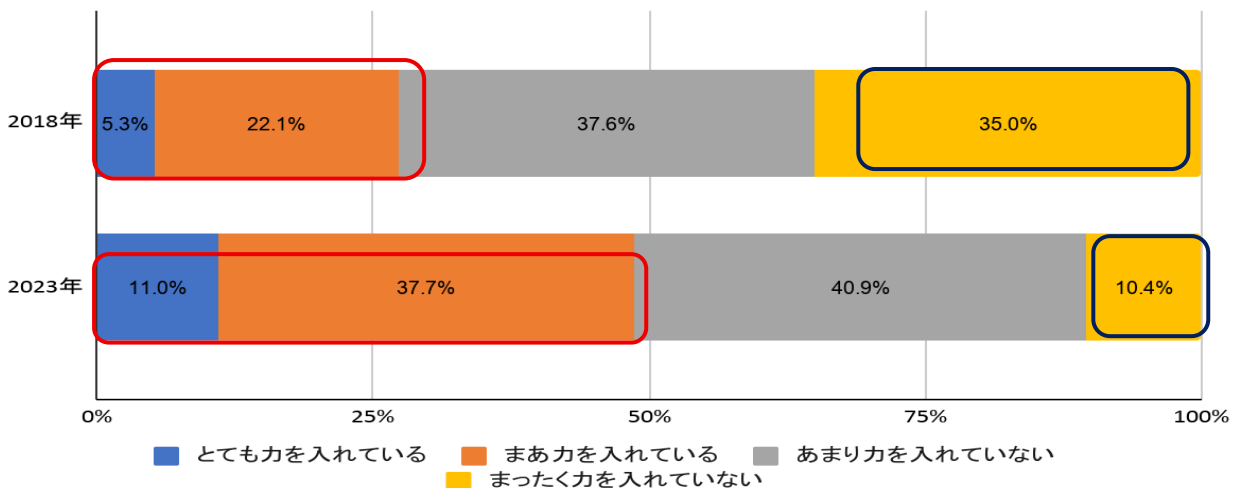


図3-4 あなたは、どのようなことにお子さんを育てていますか。(抜粋:外国語)(2018年と2023年の比較)



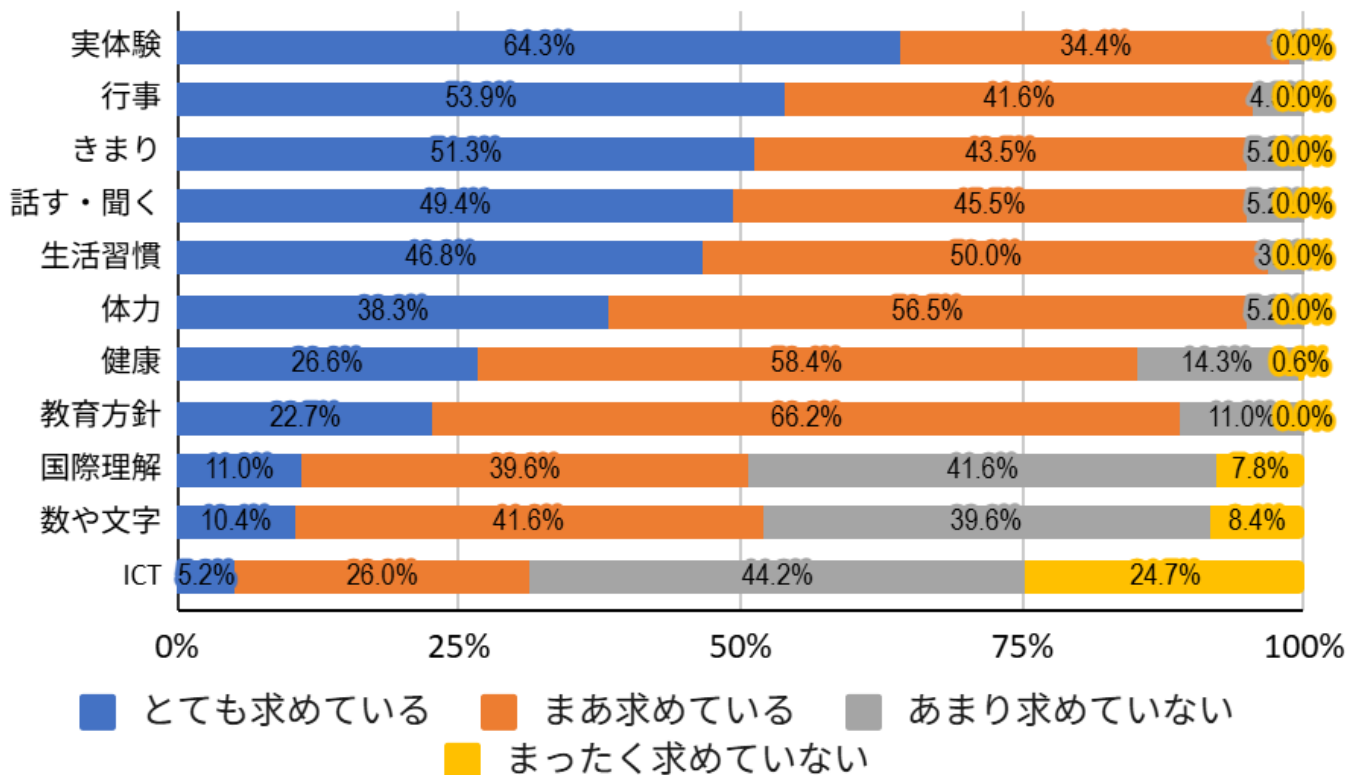
4 保護者が園に求めるもの

質問(26)で園に対して求められているものとして多く挙げたのは「実体験」(64.3%)であった。これは、家庭ではなかなかできない自然体験や社会体験など、五感を通した学びを経験させたいという願いがあることがうかがえる。また、次いで「行事」(53.9%)や「話を聞くこと 話すこと」(49.4%)が多く挙げられている。このことから人とのコミュニケーション力が培われることを期待していることが考えられる。

【質問内容】

(26) あなたはどのようなことを、園に求めていますか。【図 4-1】

図4-1 あなたはどのようなことを、園に求めていますか。(2023年、全体)



5 子育てにおいて力を入れていること

男女共に多くの保護者が、他者への思いやり、社会のマナーを身につける、基本的な生活習慣など、生活していく上で欠かせないものに「とても力を入れている」と回答している。【図5-1、図5-4～6】また、親子でのふれあい、関わっていくことにも力を入れていることがわかる。回答に男女での差は大きく見られない。【図5-2、図5-3】

幼児は、生活全般を保護者が管理しているため、男女の差が大きく出にくい。

生活面や、集団生活、人との関わりなど、今後生活していくために必要なことに対して男女共に多くの保護者が力を入れていることが回答から読み取れる。今後、子ども自身が自分で生活していくのに必要なことや、人との関わり方など、子どもの姿や保護者のニーズに合わせてわかりやすく具体的に保護者に伝えていくべきである。その為に園と保護者で細かく連携を取っていくことが今後必要である。

図表 次ページへ

【質問内容】

(25)あなたは、どのようなことに力を入れて、お子さんを育てていますか。【各項目、1つにマーク】

図5-1 (力を入れていること 2023年全体)

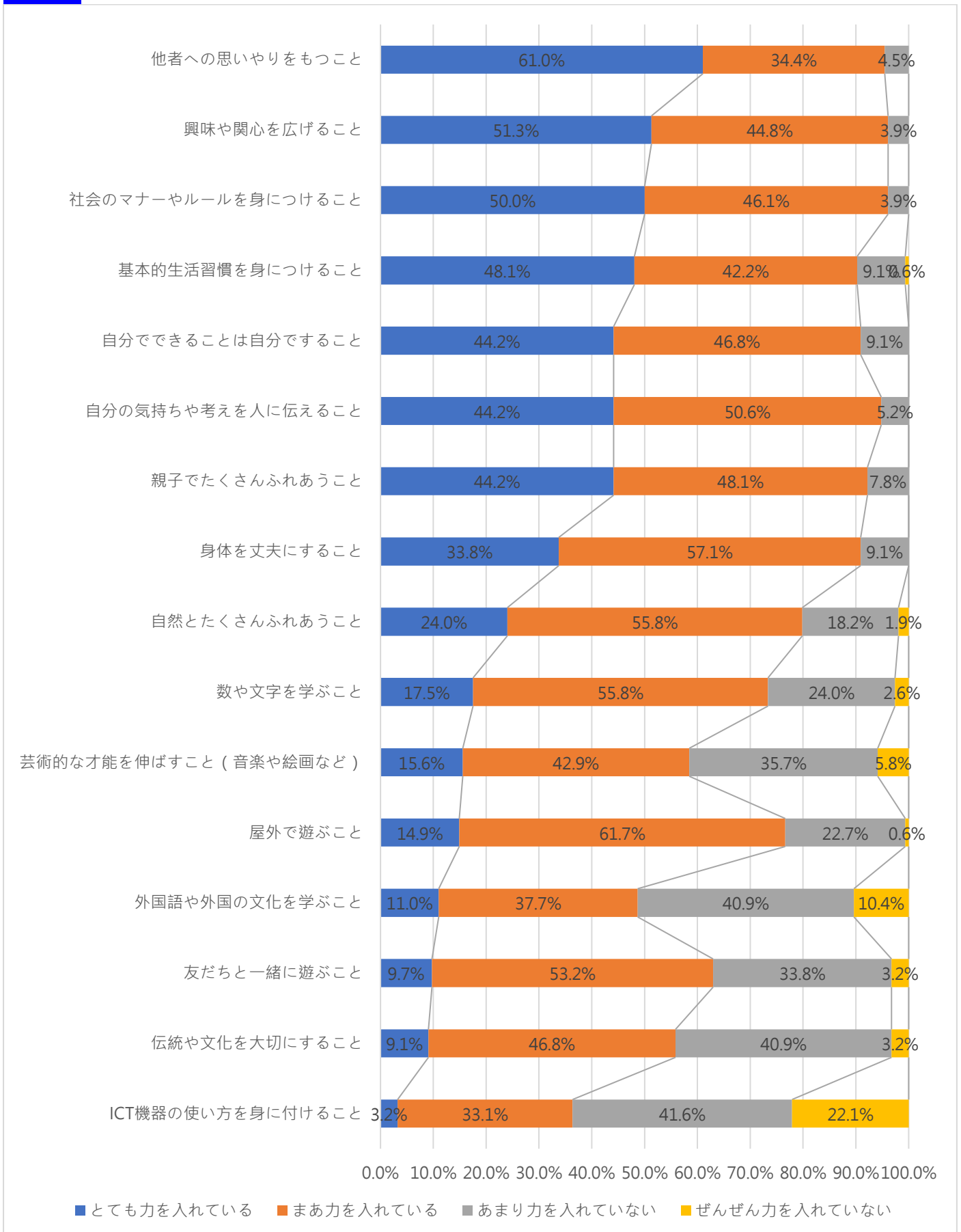


図5-2 (力を入れていること 2023年男児)

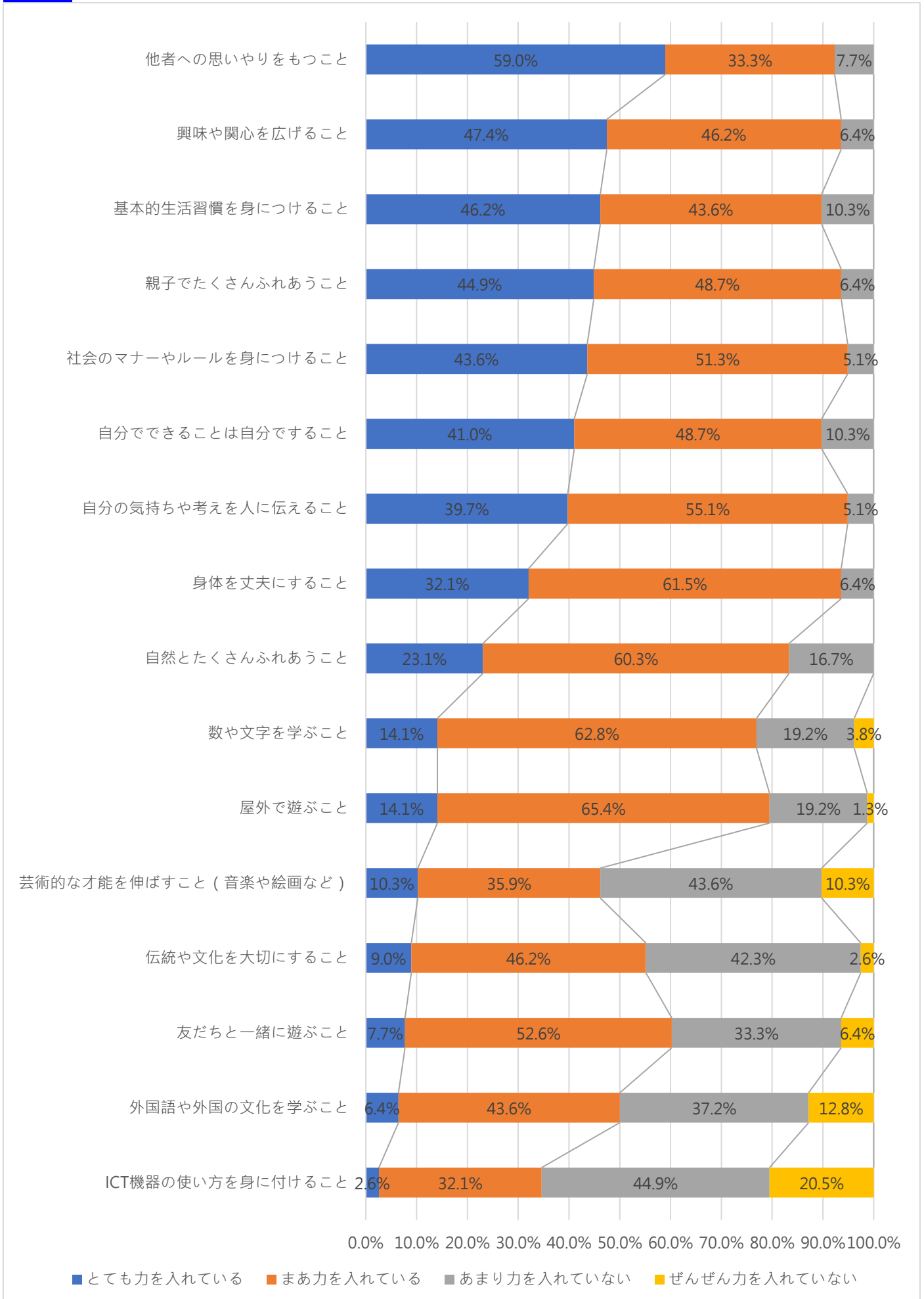


図5-3 (力を入れていること 2023年女兒)

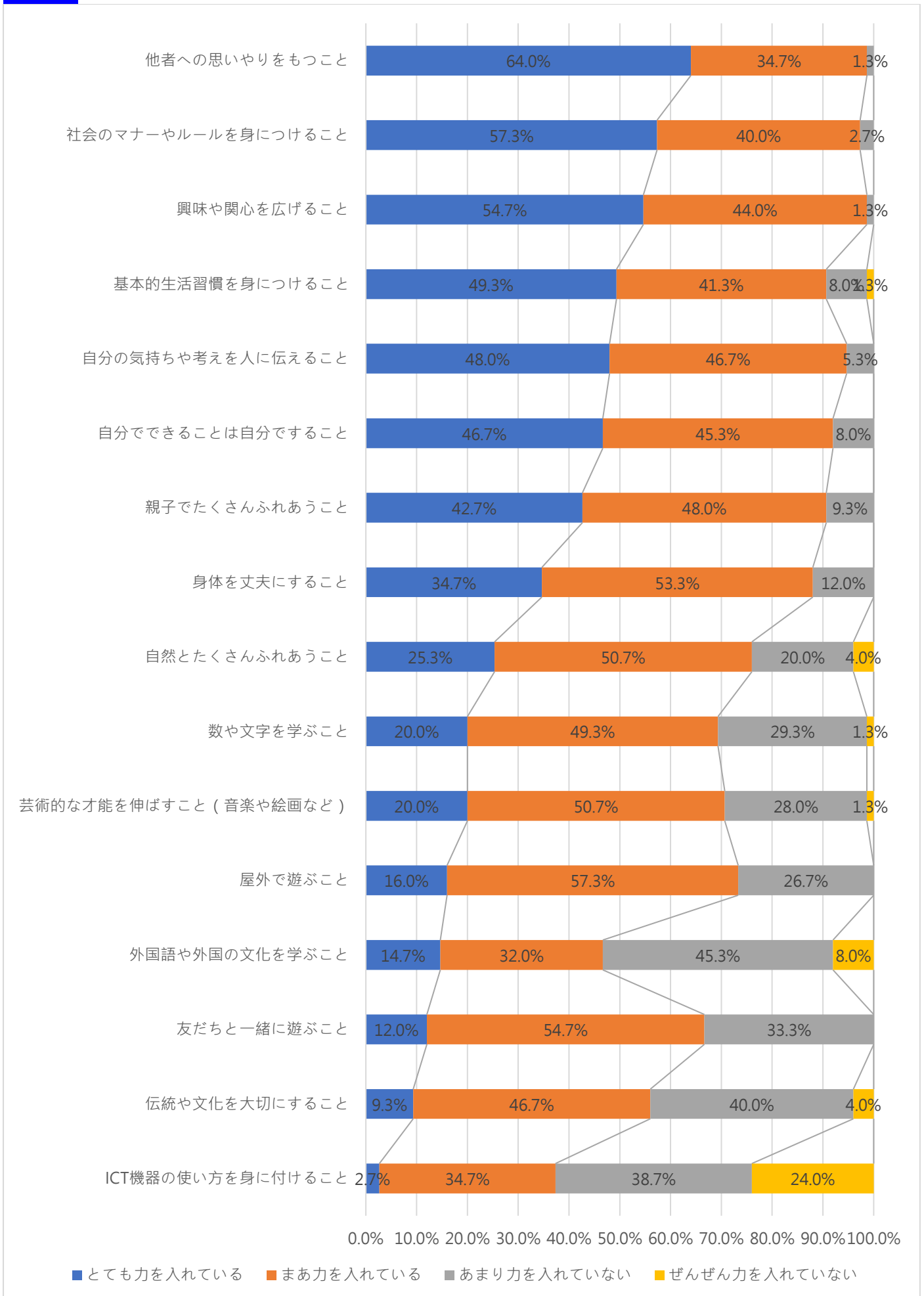
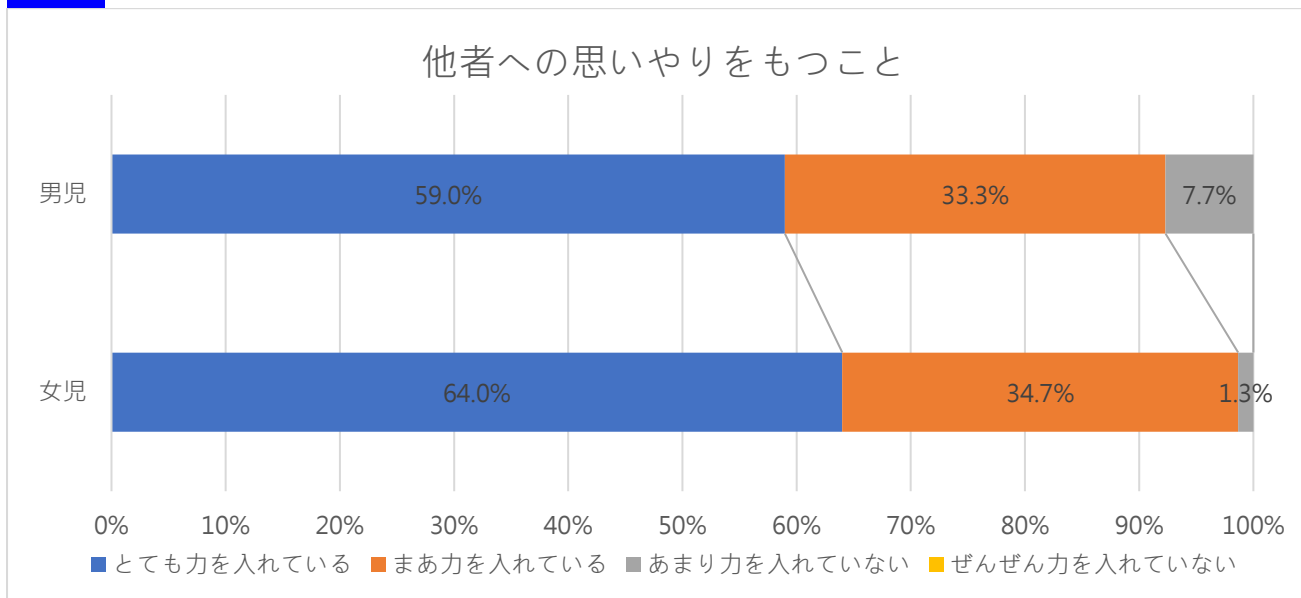
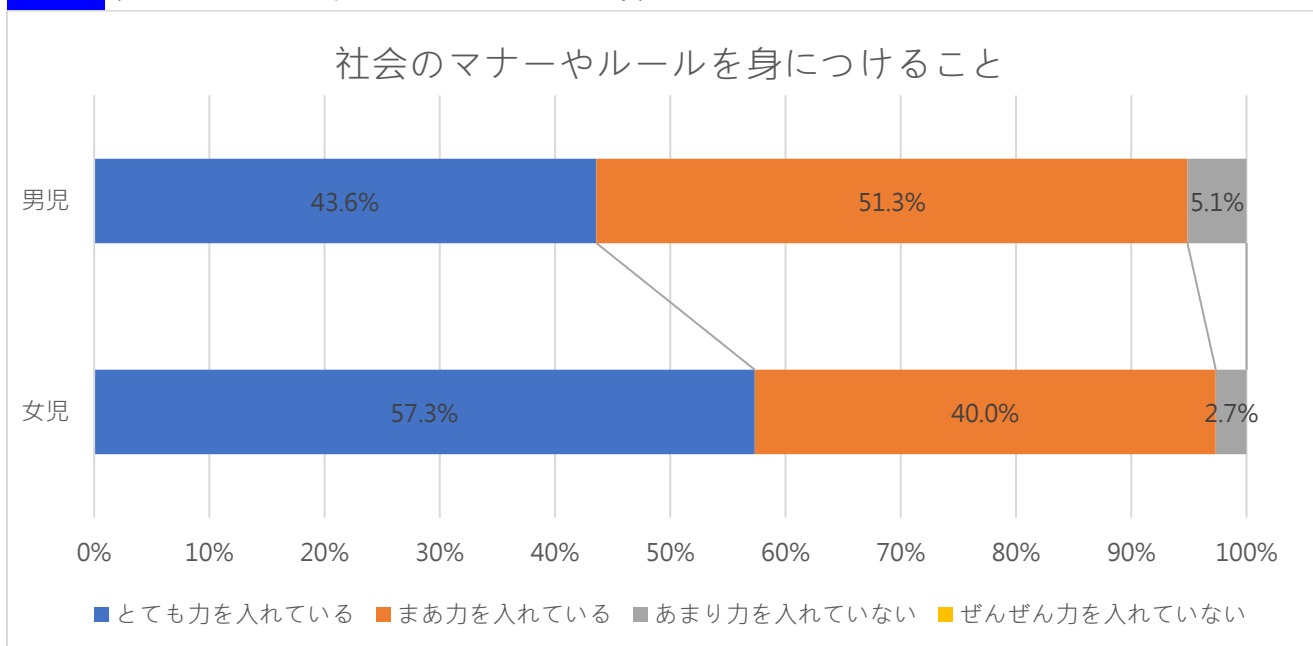


図5-4 (他者への思いやりをもつこと 2023年)



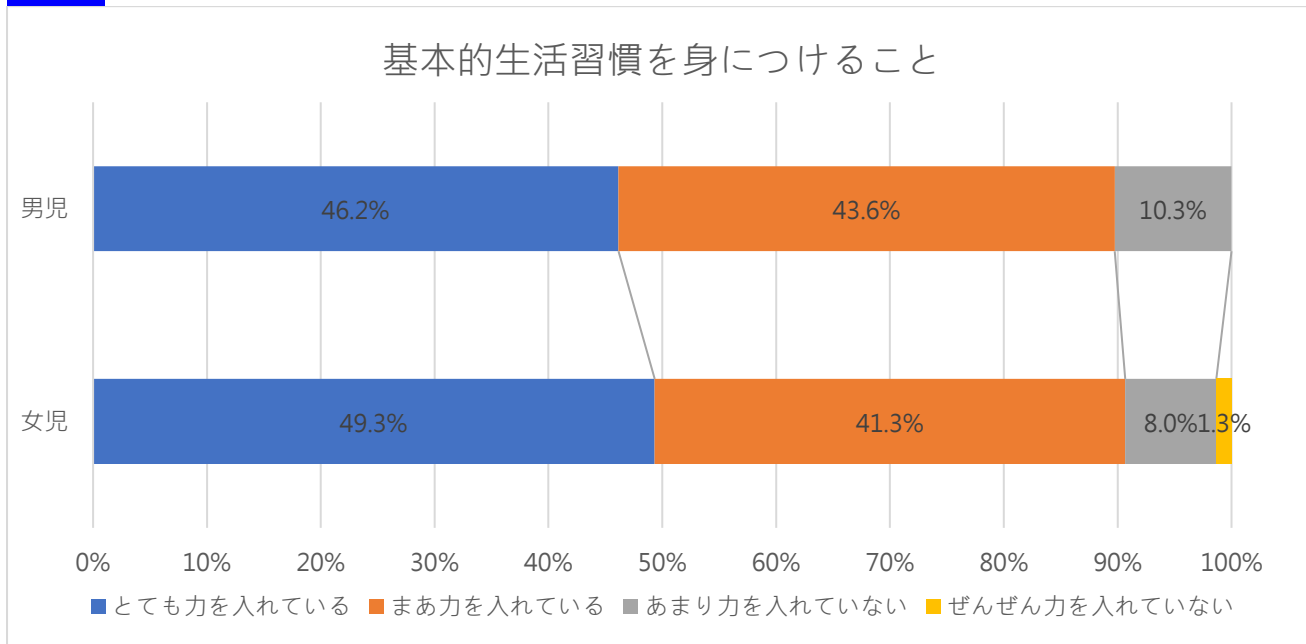
他者への思いやりをもつこと	とても力を入れている	まあ力を入れている	あまり力を入れている	まったく力を入れている	
男児	59.0%	33.3%	7.7%	0.0%	100.0%
女児	64.0%	34.7%	1.3%	0.0%	100.0%

図5-5 (社会のマナーを身につけること 2023年)



社会のマナーやルールを身につけること	とても力を入れている	まあ力を入れている	あまり力を入れている	まったく力を入れている	
男	43.6%	51.3%	5.1%	0.0%	100.0%
女	57.3%	40.0%	2.7%	0.0%	100.0%

図5-6 (基本的な生活習慣を身につけること 2023年)



基本的な生活習慣を身につけること	とても力を入れている	まあ力を入れている	あまり力を入れている	まったく力を入れている	
男	46.2%	43.6%	10.3%	0.0%	100.0%
女	49.3%	41.3%	8.0%	1.3%	100.0%

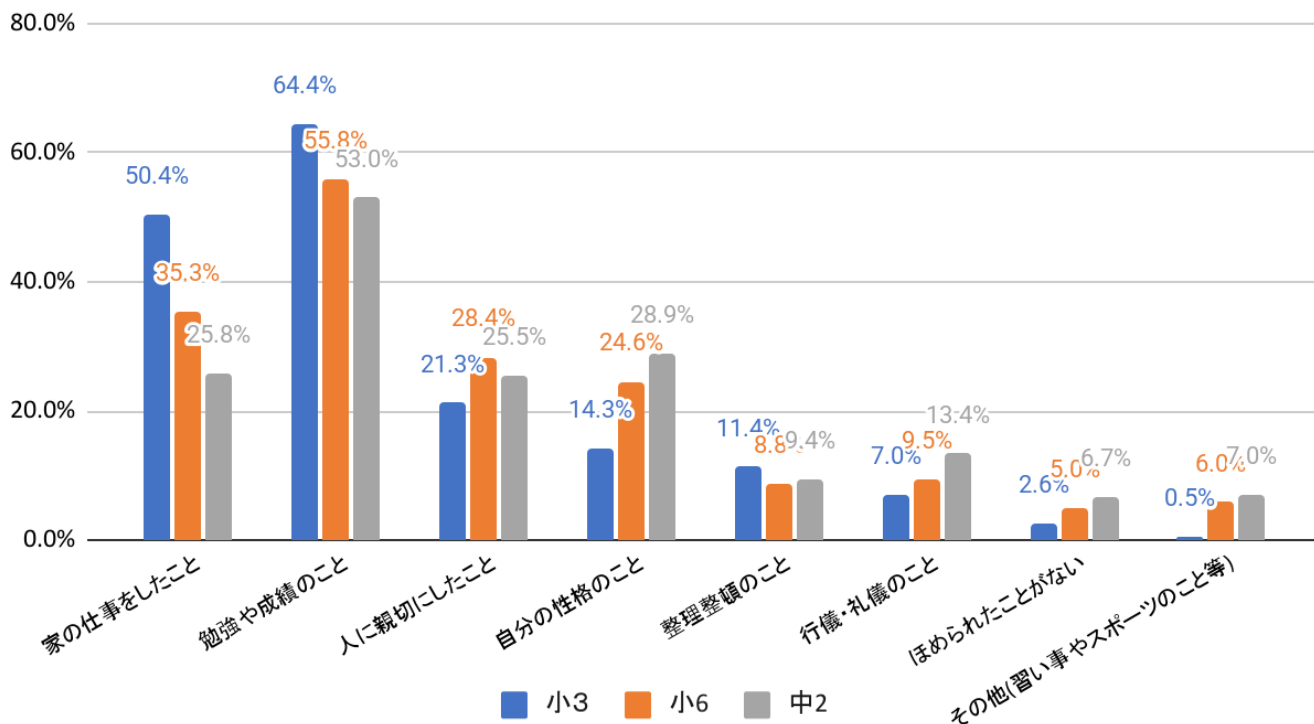
6 ほめられることは全学年で「勉強・成績のこと」が最も多い

質問(47)より、どの学年も「ほめられること」は「勉強・成績のこと」が最も多かった。質問(48)より、「しかられること」は「勉強・成績のこと」が学年が上がるにつれ多くなり、全体的にも多くを占めている。この結果より、家庭において学業が親子の話題になることが多いことがわかる。

【質問内容】

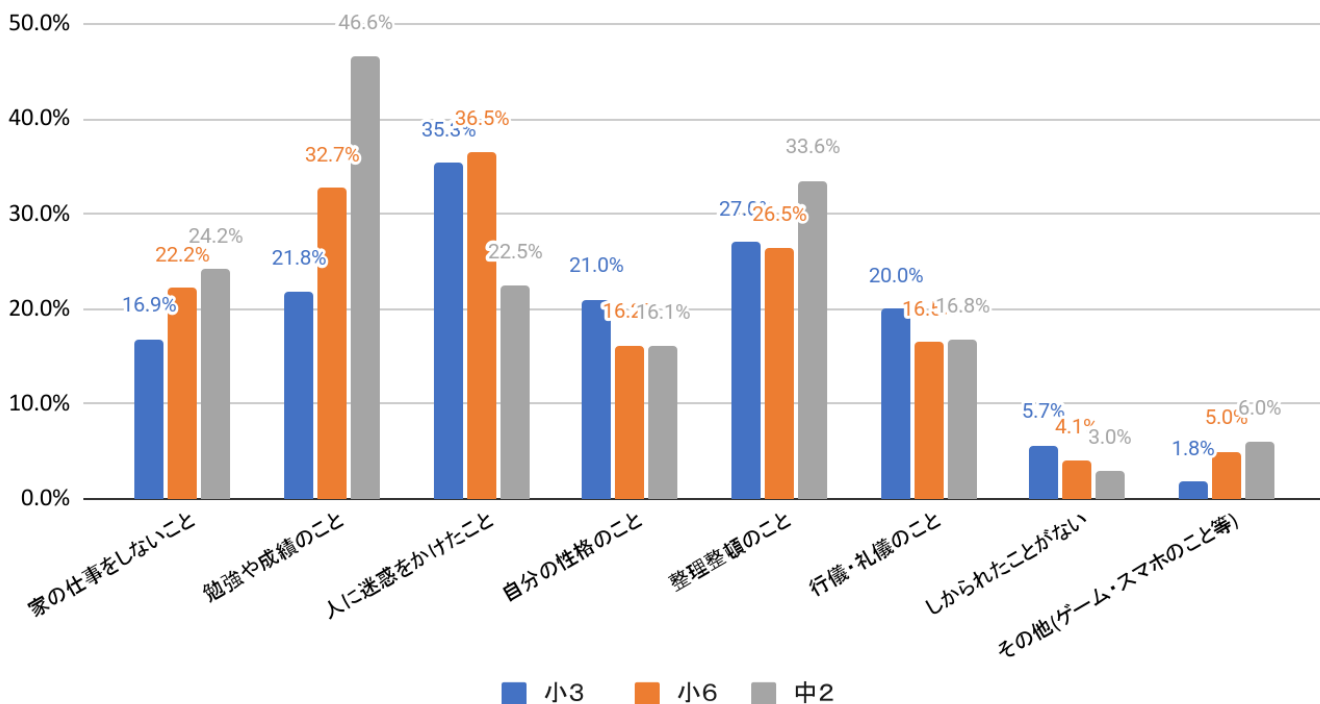
(47) 今までに、家の人からどんなことでほめられましたか。(多かったものを2つまでマーク)

図6-1 (2023年、学年別)



(48) 今までに、どんなことでしかられましたか。(多かったものを2つまでマーク)

図1-2



生活について(1)

幼児の就寝時間・起床時間は大きな変化はなく、保護者の管理のもとで比較的安定した生活リズムが保たれている。一方で児童生徒の学年が上がるにつれて就寝時間が遅くなる傾向があり、特に中学生ではその傾向が強くみられる。背景には学習塾や習い事など、夜の活動時間の増加が影響していると考えられる。

参照：「7 就寝時間・起床時間については、大きな変化はあまりみられない」「8 就寝時間は学年が上がるに連れ遅くなっている」

朝食を毎日食べている割合は全体として高いが、児童生徒の学年が上がるにつれてやや減少する傾向がみられる。また、決まった時間に起きられない児童ほど朝食を食べない割合が高く、生活リズムの乱れが食習慣にも影響していると思われる。

参照：「9 朝食は多くの幼児・児童生徒が食べている」

家の仕事(手伝い)については、幼児・児童生徒ともに「食事の準備や片付け」といった食事に関する手伝いが最も多い。しかし、児童生徒では家の仕事を「ほとんどしない」「まったくしない」と答える割合が増加し、前回調査と比べて全体で1割近く増加している。背景には学業や習い事で忙しく、家庭で過ごす時間が減ったことが考えられる。

参照：「10 家の仕事をする児童生徒は前回調査より約 10%減っている」「11 家の仕事は、どの学年も“食事”の回答が多かった」

挨拶に関しては幼児・生徒児童の多くが日常的に行っているものの、児童生徒の学年が上がるにつれて「あいさつをしない」と答える割合が増えている。成長に伴い生活環境や人間関係が変化することが影響している可能性がある。

参照：「12 挨拶はどの学年もほとんど行えている」

子どもの成長に伴い、生活習慣や行動が少しずつ変化していることがわかる。幼児は保護者の関わりが大きいため、就寝・起床時間や朝食、挨拶といった基本的な生活習慣は比較的安定している。一方、児童生徒は学年が上がるにつれ、学習や習い事、友人関係など活動の幅が広がったり、親との会話時間が少なくなったりすることで、生活時間が不規則になりやすい。その結果、就寝時間が遅くなったり、朝食を食べなくなったり、家の手伝いが減少したり、といったことが表れてきていると考えられる。

家庭と学校が連携し、規則正しい生活や挨拶などの大切さを伝え続けることが大切となってくる。子どもたちが無理なくよい生活習慣を身に付けられる環境を整えることが、健やかな成長へとつながるのではないだろうか。

7 就寝時間・起床時間については、大きな変化はあまりみられない

就寝時間・起床時間については、アンケートをとった2003(平成15)年、2008(平成20)年、2023(令和5)年で大きな変化はあまりみられない。ただし就寝時間については、22時後以降の回答は若干減少している【図7-1】

起床時間については、「いつも決まった時間に起きる」が増加している【図7-1】が、2018(平成30)年の調査で設問が変わった為で実質は大きな変化は見られないと思われる。

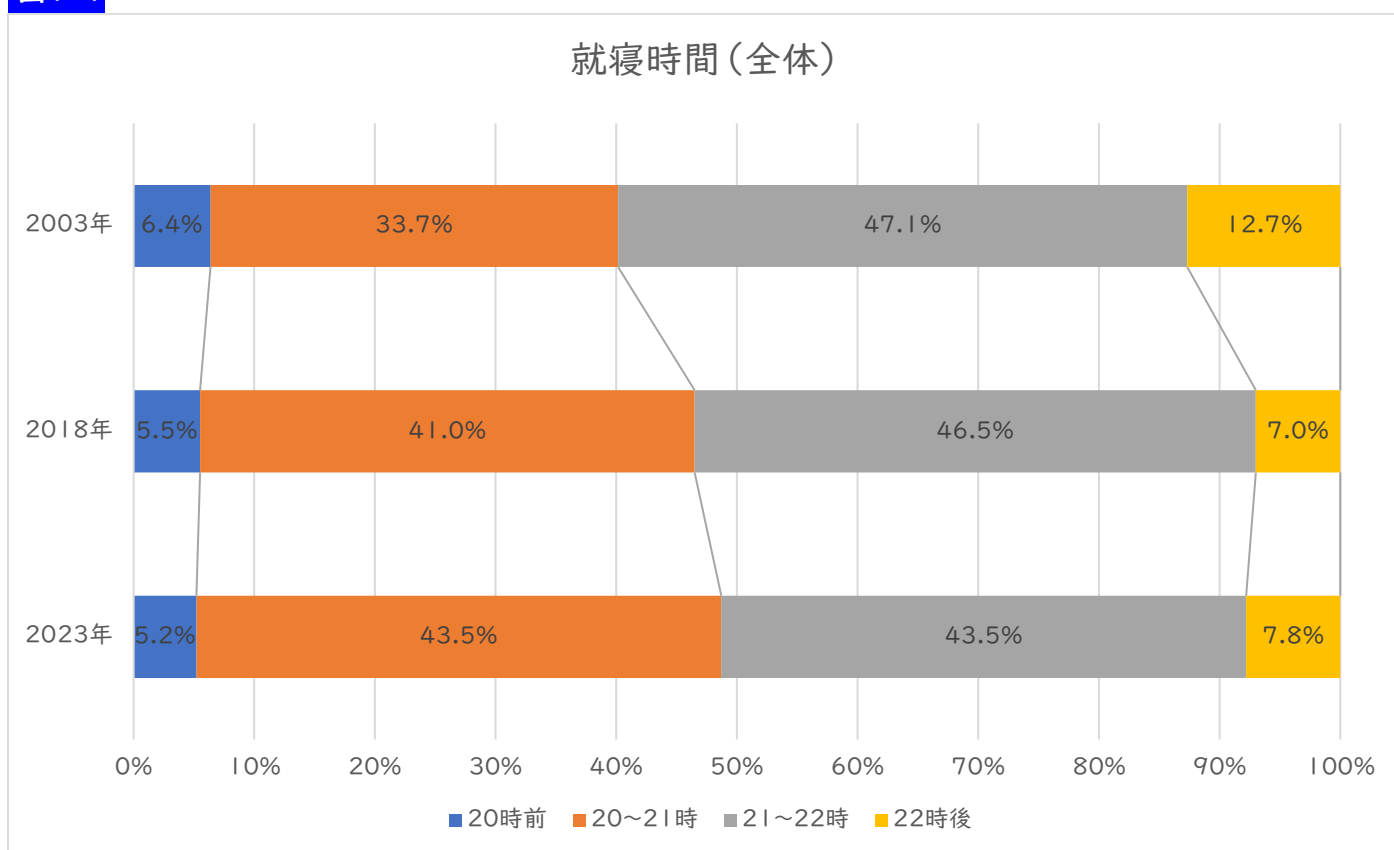
起床時間・就寝時間については、幼児は保護者が管理している為、大きな変化は表れにくいことが考えられる。また、保護者の労働時間や働き方の変化に関係があると考えられる。

今後も働く保護者が増えていく傾向が予想される為、就寝時間や、起床時間に影響が出ることが考えられる。

【質問内容】

(9)お子さんは、園のある前の日、何時ごろ寝ますか。(図7-1)

図7-1



就寝	2023年	2018年	2003年
20時前	5.2%	5.5%	6.4%
20~21時	43.5%	41.0%	33.7%
21~22時	43.5%	46.5%	47.1%
22時後	7.8%	7.0%	12.7%
	100.0%	100.0%	100.0%

【質問内容】

(3)お子さんは、園のある日の朝、決まった時間に起きることができますか。

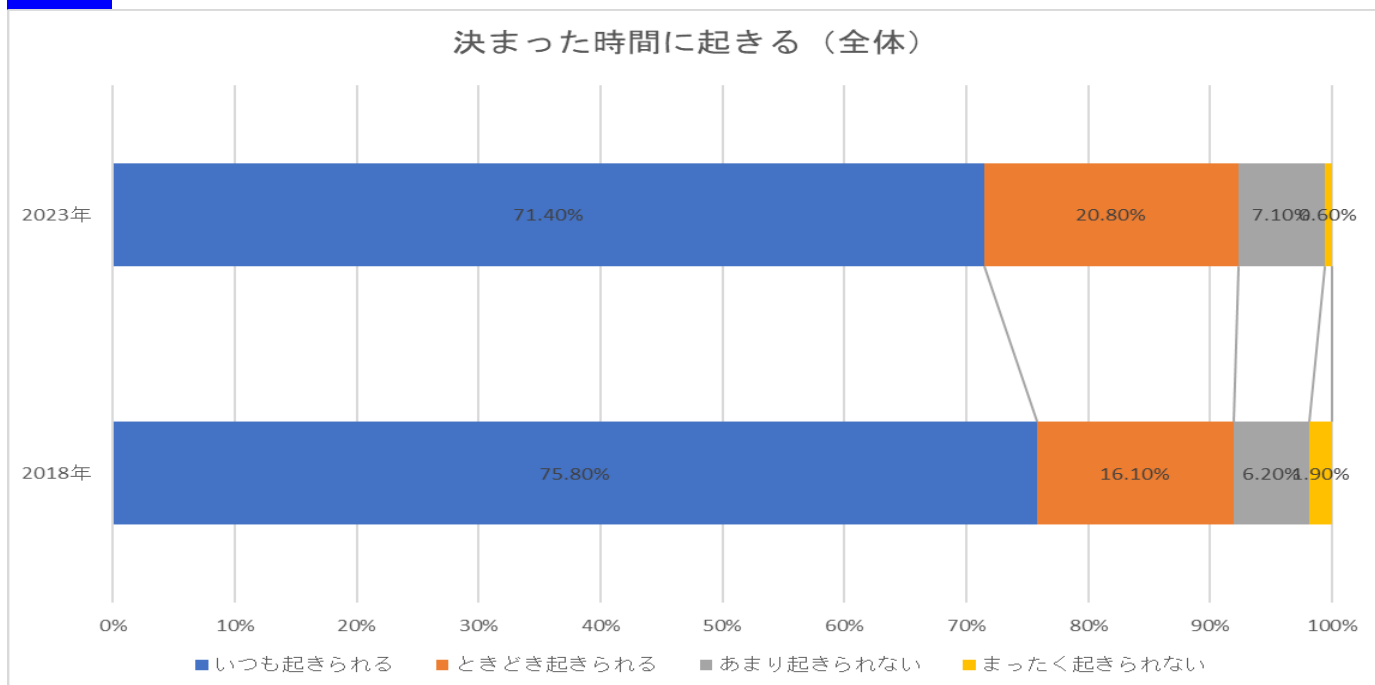
アンケート(25)の「あなたはどのようなことに力を入れて、お子様を育てていますか。」の結果(「5 子育てにおいて力を入れていること」参照)からも、男女ともに約5割の保護者が基本的な生活習慣に力を入れていることがわかる。

アンケート(3)の「お子さんは、園のある日の朝、決まった時間に起きることができますか。」の結果から、20時前に寝る場合は約9割が朝決まった時間に起きられると回答しているが、22時以降に寝る場合は半数が、朝決まった時間に起きられないと回答している。生活リズムを整えるためには早寝、早起きが非常に重要になってくると考えられる。【図7-2、図7-3】

幼児期は、睡眠時間の長さによって生活に大きく影響がある。十分な睡眠時間を取れることで、意欲的に行動したり、落ち着いて過ごしたり、生活リズムが整うことで子ども自身が安定して園生活を送る要因になることが考えられる。

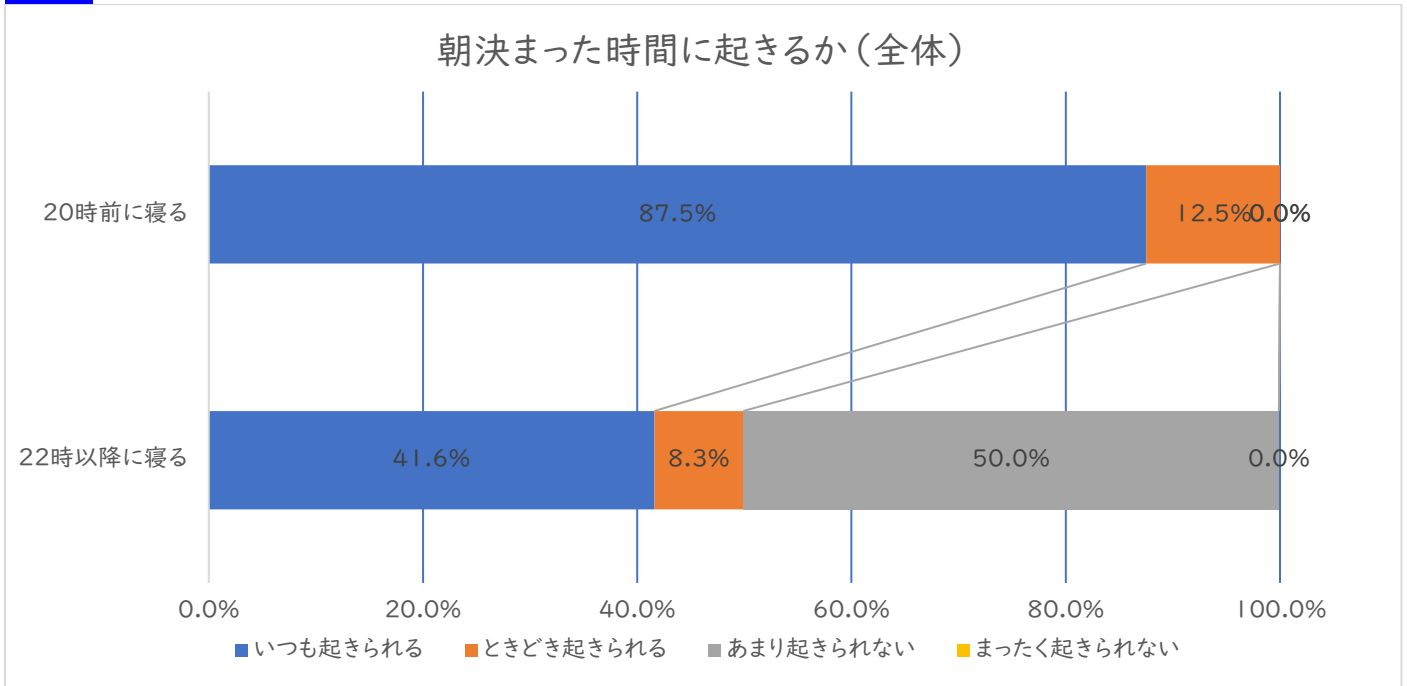
そのため、生活リズムを整える為に保護者への働きかけが今後もより必要になってくる。働く保護者が増える傾向にある中で子どもの睡眠時間の確保をどうやっていくかが今後の課題である。

図7-2



決まった時間に起きる	2018年	2023年
いつも起きられる	75.8%	71.4%
ときどき起きられる	16.1%	20.8%
あまり起きられない	6.2%	7.1%
まったく起きられない	1.9%	0.6%
	100.0%	99.9%

図7-3



朝決まった時間に起きる	20 時前に寝る	22 時以降に寝る
いつも起きられる	87.5%	41.6%
ときどき起きられる	12.5%	8.3%
あまり起きられない	0.0%	50.0%
まったく起きられない	0.0%	0.0%
	100.0%	99.9%

8 就寝時間は学年が上がるにつれ遅くなっている

就寝時間について、小学3年生は9時前に寝る児童が22.6%に対して、小学6年生は6.4%、中学2年生に関しては、9時前に寝る生徒はいない。また、11時から12時の間に寝ていると回答した児童生徒は、小学6年生で11.9%、中学2年生で35.9%と小学6年生の約3倍にも増えている。【図8-1】学年が上がるにつれて就寝時間は遅くなる傾向があると分かった。これには一因として、学習塾に通う回数に関係している。就寝時間と1週間に何回学習塾へ行くかのクロス集計の結果から学習塾へ通う回数が多い児童生徒の就寝時間が遅い傾向にあることが分かった。【図8-4】

【質問内容】

(4) 学校がある前の日、だいたい夜何時ごろに寝ますか。(図8-1)

(15) 学習じゅくへ行くのは、1週間のうち何日ですか。(図8-2)

図8-1 学校がある前の日、だいたい夜何時ごろに寝ますか。(令和5年)

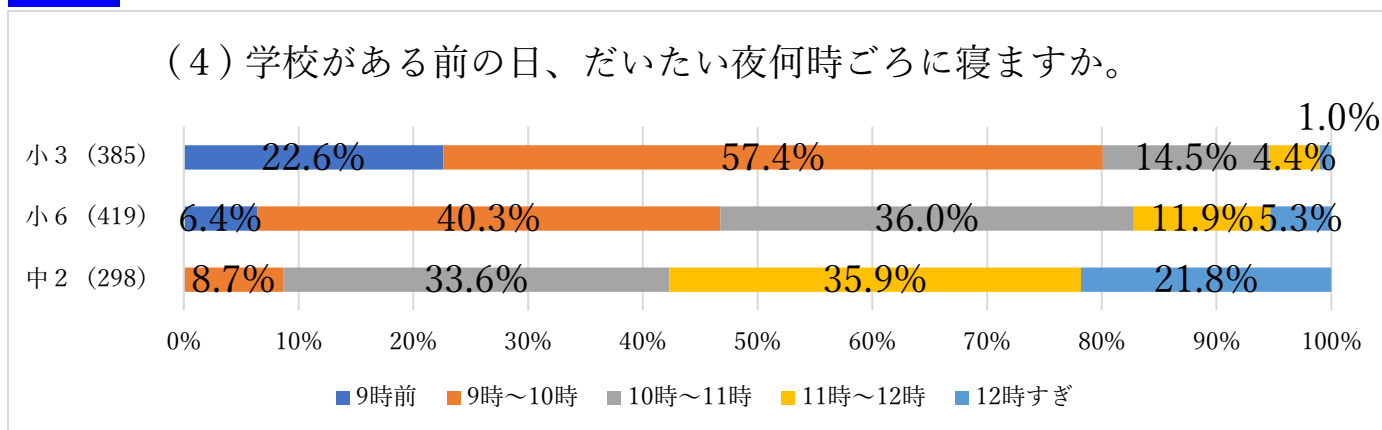


図8-2 学習じゅくへ行くのは、1週間のうち何日ですか。(平成30年と令和5年の比較)

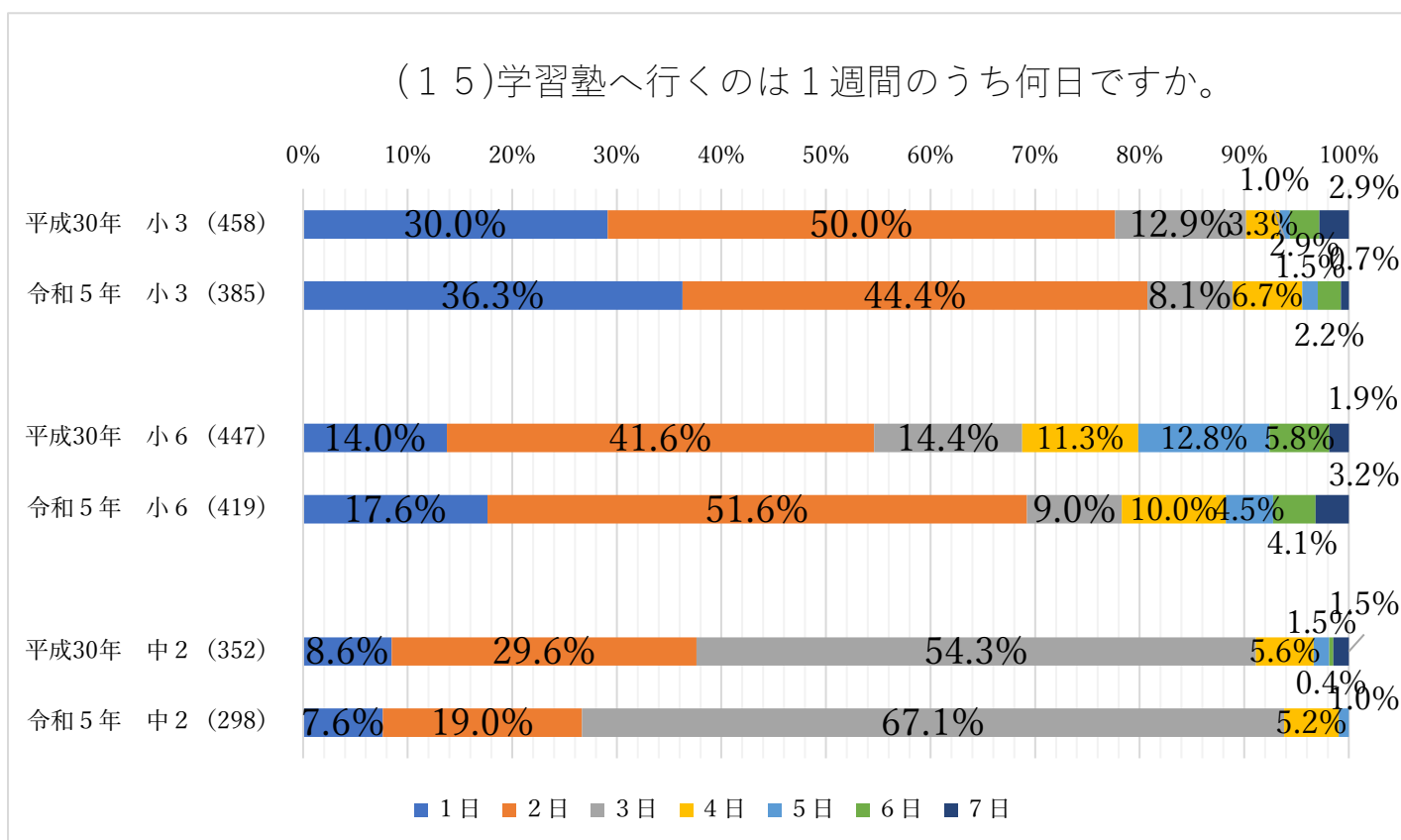


図8-3 学習塾へ行く日数と就寝時間のクロス集計(令和5年)

小学3年生						
通塾日数/ 就寝時間帯	9時より前	9時から10時 くらいまで	10時から11時 くらいまで	11時から12時 くらいまで	12時を 過ぎてから	計(人)
0日	57	144	36	10	3	250
	22.8%	57.6%	14.4%	4.0%	1.2%	
1日	12	25	10	2		49
	24.5%	51.0%	20.4%	4.1%	0.0%	
2日	12	36	8	4		60
	20.0%	60.0%	13.3%	6.7%	0.0%	
3日	3	6	1	1		11
	27.3%	54.5%	9.1%	9.1%	0.0%	
4日	2	6	1			9
	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	0.0%	
5日		1			1	2
	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
6日	1	2				3
	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
7日		1				1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
計	87	221	56	17	4	385
	22.6%	57.4%	14.5%	4.4%	1.0%	
小学6年生						
通塾日数/ 就寝時間帯	9時より前	9時から10時 くらいまで	10時から11時 くらいまで	11時から12時 くらいまで	12時を 過ぎてから	計(人)
0日	18	90	66	15	9	198
	9.1%	45.5%	33.3%	7.6%	4.5%	
1日	1	20	14	4		39
	2.6%	51.3%	35.9%	10.3%	0.0%	
2日	5	45	40	12	6	114
	4.4%	39.5%	40.4%	10.5%	5.3%	
3日	3	5	5	5	2	20
	15.0%	25.0%	25.0%	25.0%	10.0%	
4日		5	10	5	2	22
	0.0%	22.7%	45.5%	22.7%	9.1%	
5日		1	5	3	1	10
	0.0%	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%	
6日		2	3	4		9
	0.0%	22.2%	33.3%	44.4%	0.0%	
7日		1	2	2	2	7
	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	
計	27	169	151	50	22	419
	6.4%	40.3%	36.0%	11.9%	5.3%	

中学2年生						
通塾日数/ 就寝時間帯		9時から10時 くらいまで	10時から11時 くらいまで	11時から12時 くらいまで	12時を 過ぎてから	計(人)
0日		12	33	30	13	88
	0.0%	13.6%	37.5%	34.1%	14.8%	
1日		2	4	6	4	16
	0.0%	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	
2日		3	11	16	10	40
	0.0%	7.5%	27.5%	40.0%	25.0%	
3日		8	48	51	34	141
	0.0%	5.7%	34.0%	36.2%	24.1%	
4日		1	4	3	3	11
	0.0%	9.1%	36.4%	27.3%	27.3%	
5日				1	1	2
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	
6日						0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
7日						0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
計		26	100	107	65	298
	0.0%	8.7%	33.6%	35.9%	21.8%	

図8-4 学習塾へ行く有無と就寝時間のクロス集計(令和5年)

	通塾/就寝時間	9時前	9時から 10時	10時から 11時	11時から 12時	12時すぎ
小3	いいえ	57	144	36	10	3
		80.4%		14.4%	5.2%	
	はい	30	77	20	7	1
		79.3%		14.8%	5.9%	

小6	いいえ	18	90	66	15	9
		54.5%		33.3%	12.1%	
	はい	9	79	85	35	13
		39.8%		38.5%	21.7%	

中2	いいえ	0	12	33	30	13
		13.6%		37.5%	48.9%	
	はい	0	14	67	77	52
		6.7%		31.9%	61.4%	

9 朝食は多くの幼児・児童生徒が食べている

質問(園児8)(児童5)朝食については、登園・登校する日は多くの幼児・児童生徒が食べている。いつも朝食を食べている割合をみると年齢が上がるにつれ減少している。男女別でも、大きな差はみられない。

【質問内容】

(園児8) お子さんは、登園する日、朝ご飯を食べますか。

(児童生徒5) 学校がある日、朝ご飯を食べてから出かけますか。 【図9-1】【図9-2】

図9-1 朝食を食べている割合 (2023年 全体)

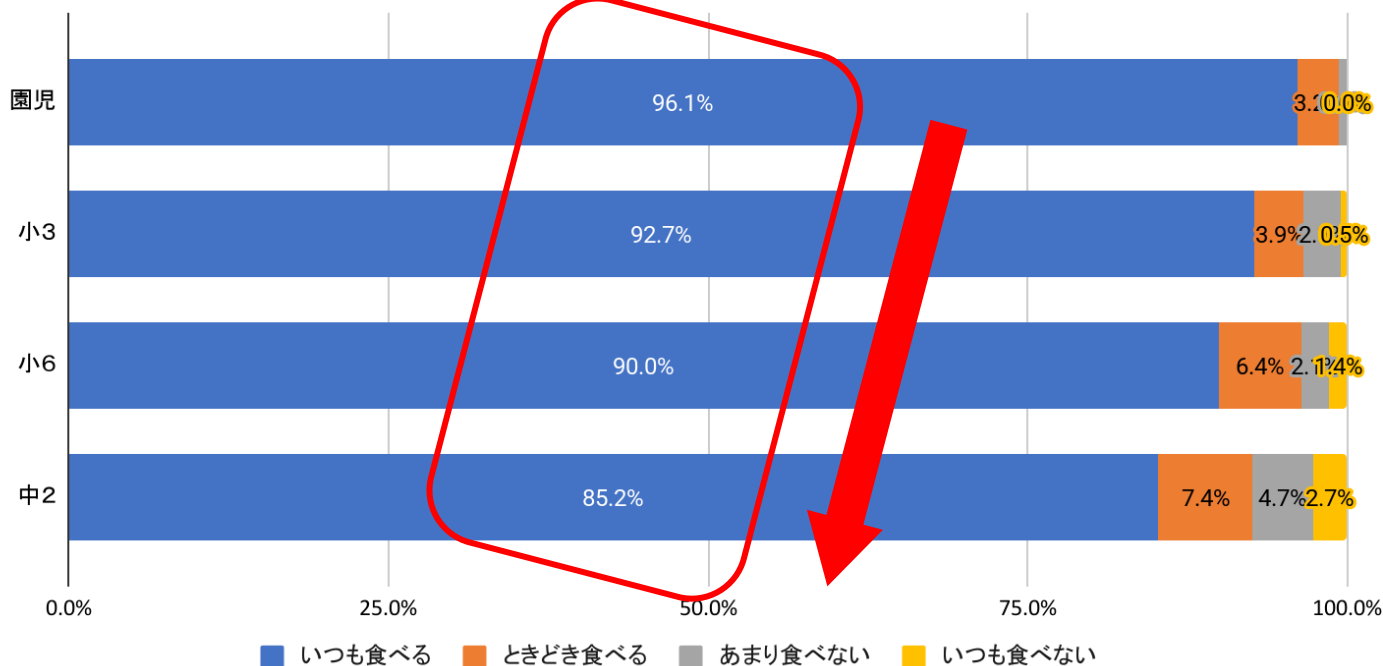
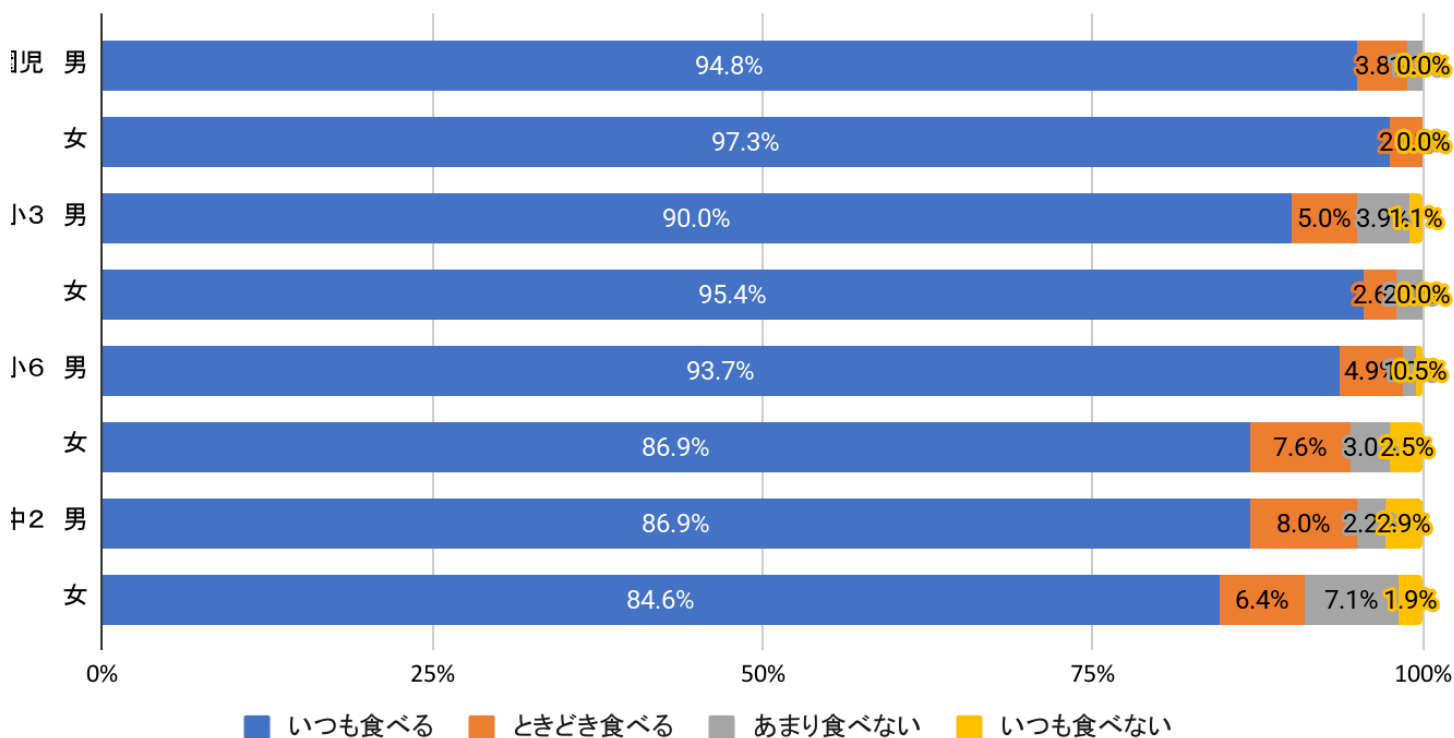


図9-2 朝食を食べている割合男女別 (2023年 男女)



“朝決まった時間に起きられるか”と“朝食を食べているか”の相関関係について調査した。(幼児5、8)(児童生徒3、5)年齢によって相関関係は一様ではないが、全体としては、決まった時間に起きている子どもほど朝食を毎日食べている割合が高くなっている。幼児に関しては、保護者が生活習慣を管理している為、起床時間に関わらず朝食が用意され食べていると考えられる。

【質問内容】

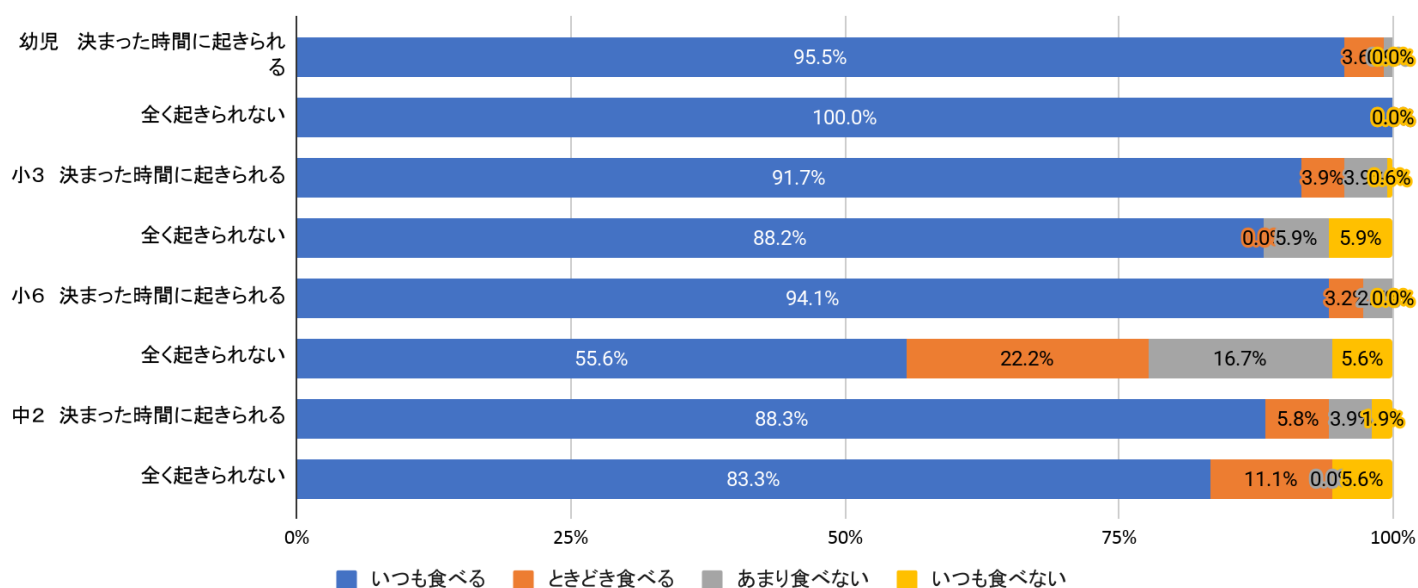
(幼児3) お子さんは、園のある日の朝、決まった時間に起きることができますか。

(幼児8) お子さんは、登園する日、朝ご飯を食べますか。

(児童3) 学校がある日の朝、決まった時間に起きることができますか。

(児童5) 学校がある日、朝ごはんを食べてから出かけますか。

図9-3 朝決まった時間に起きられる幼児、児童生徒または決まった時間に全く起きられない幼児、児童生徒は、朝食を食べているか。(2023年 全体)



	いつも食べる	ときどき食べる	あまり食べない	いつも食べない
幼児 決まった時間に起きられる	95.5%	3.6%	0.9%	0.0%
(※1名) 全く起きられない	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
小3 決まった時間に起きられる	91.7%	3.9%	3.9%	0.6%
全く起きられない	88.2%	0.0%	5.9%	5.9%
小6 決まった時間に起きられる	94.1%	3.2%	2.7%	0.0%
全く起きられない	55.6%	22.2%	16.7%	5.6%
中2 決まった時間に起きられる	88.3%	5.8%	3.9%	1.9%
全く起きられない	83.3%	11.1%	0.0%	5.6%

10 家の仕事をする児童生徒は前回調査より約10%減っている

質問(9)から、児童生徒が家の仕事をしているかどうかを2018年(平成30年)と2023年(令和5年)で比較した。すべての学年で「あまりしない」「まったくしない」と回答する児童生徒が約7~9%増加していることが分かる。【図10-1】

また、質問(18)から、習い事の日数において、週3日以上習い事に通っている児童生徒が約10%増加していることが分かった。【図10-2】

このことから、児童生徒は習いごとで忙しくなり、家の仕事をする機会が減っている一因となっているのではないかと思われる。

【質問内容】

(9) ふだんの生活の中で、家の仕事(しごと)をしますか。

(18) 習いごとに行くのは、1週間のうち合わせて何日ですか。

図10-1 家の仕事をしているか。(2018年と2023年の比較、学年別)

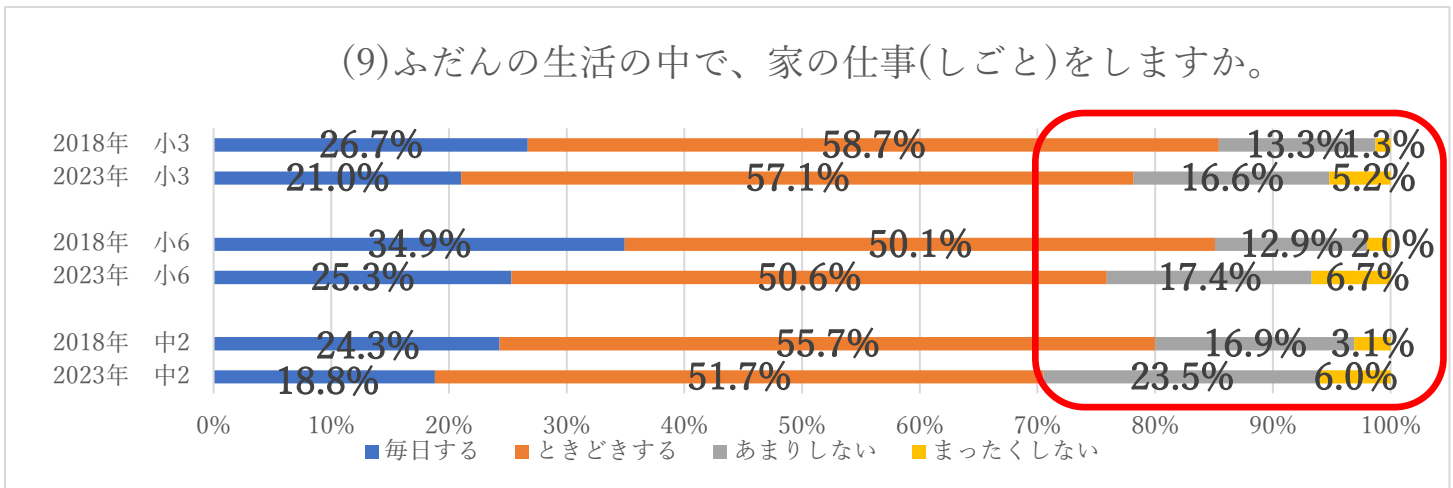
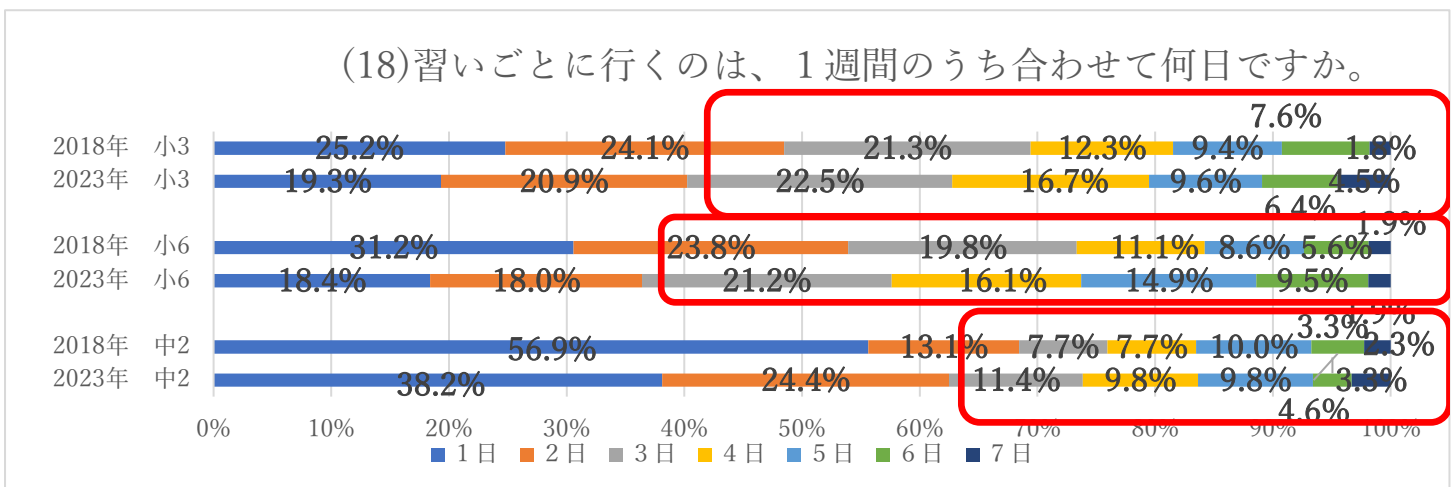


図10-2 習い事の日数(2018年と2023年の比較、学年別)



生活について

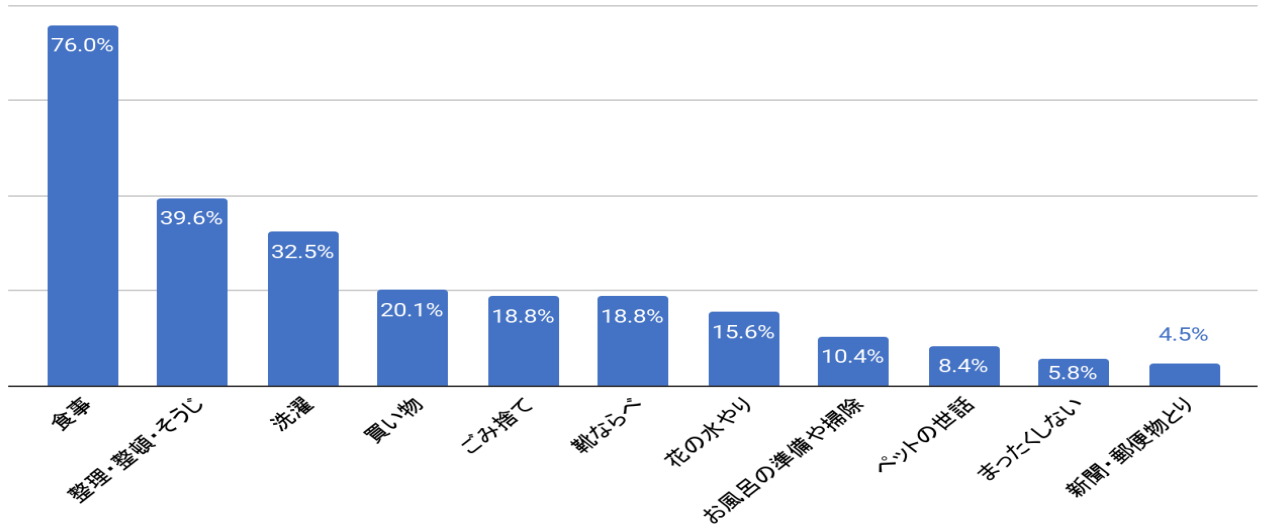
11 家の仕事は、どの学年も“食事”の回答が多かった

家の手伝いについては、どの学年でも“食事”の回答が一番多くなっている。(幼児17)(児童生徒10)食事は毎日3回行われるため、子どもが関わる機会が多いことが考えられる。また、配膳や片付けなど安全で簡単な作業が多く、保護者が任せやすいことも考えられる。

【質問内容】

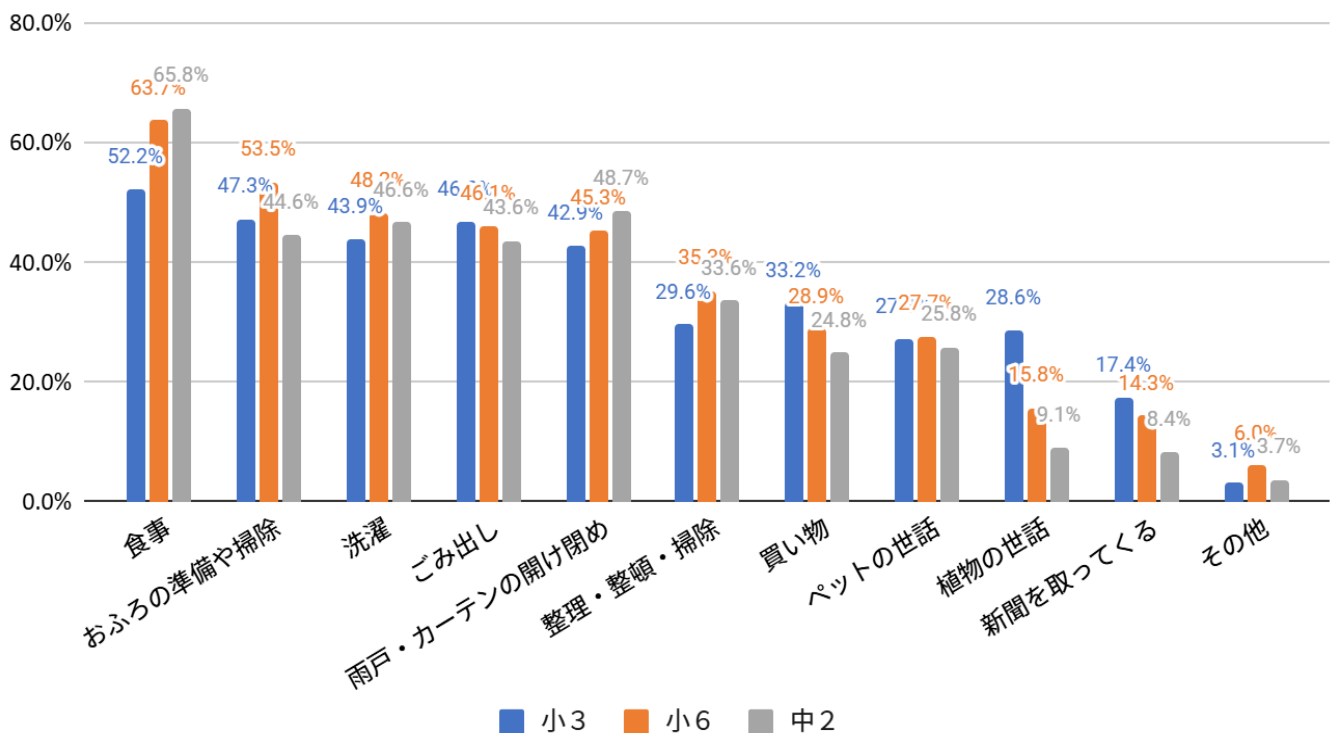
(幼児17)お子さんは、どんな家の仕事(手伝い)をしますか。3つまで選んでください。

(2023年 幼児全体)



(児童生徒10)家でどんな仕事(しごと)をしますか。あてはまるもの全てマークする。

(2023年児童生徒全体)



	食事	おふろの準備や掃除	洗濯	ごみ出し	雨戸・カーテンの開け閉め	整理・整頓・掃除	買い物	ペットの世話	植物の世話	新聞を取ってくる
小3	52.2%	47.3%	43.9%	46.8%	42.9%	29.6%	33.2%	27.3%	28.6%	17.4%
小6	63.7%	44.6%	48.2%	46.1%	45.3%	35.3%	28.9%	27.7%	15.8%	14.3%
中2	65.8%	44.6%	46.6%	43.6%	48.7%	33.6%	24.8%	25.8%	9.1%	8.4%

12 挨拶はどの学年もほとんど行えている

挨拶については「いつもする」と「ときどきする」を合わせると、ほとんどの幼児・児童生徒が行っていることが分かる。男女別に「いつもする」の回答を見ると幼児のみ女児が多く、他学年は男子が多くなっている。しかし「まったくしない」の回答はわずかに男児が多くなっていた。

【質問内容】

(幼児 10)お子さんは、ふだんの生活の中で、家族や先生など身近な人にあいさつをしますか。

(児童生徒2)ふだんの生活の中で自分からあいさつしますか。

図 12-1 あいさつをしている割合(2023年 全体)

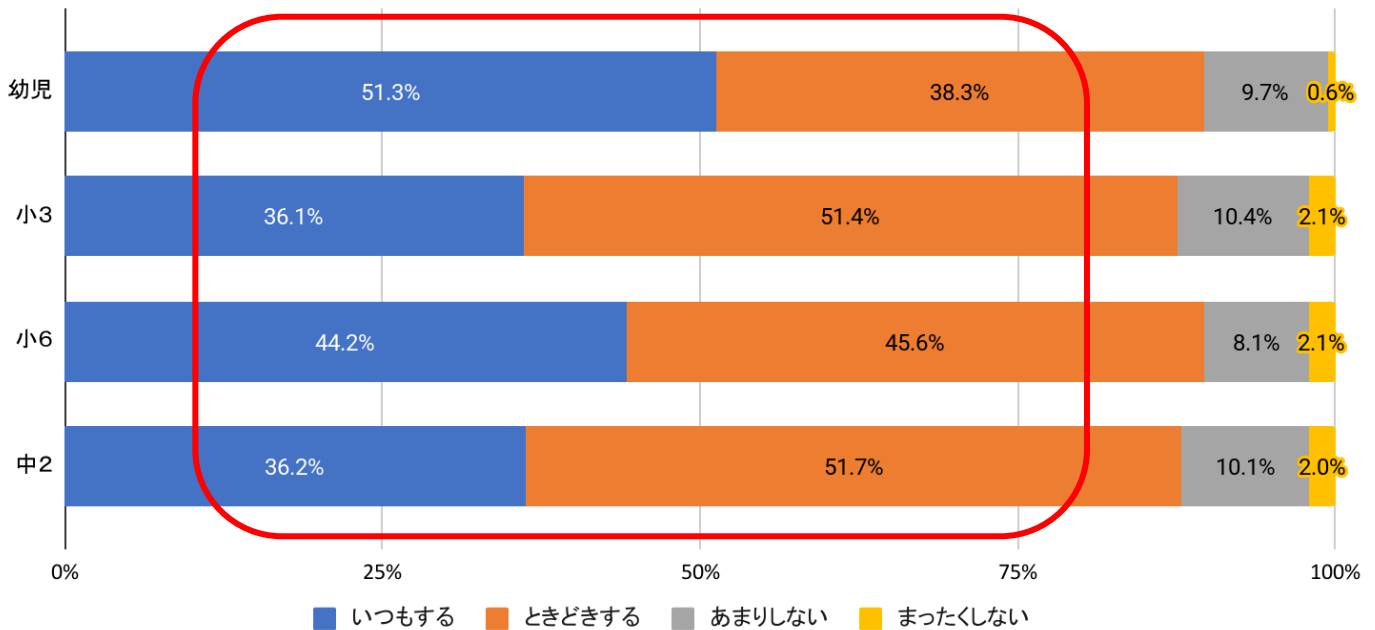
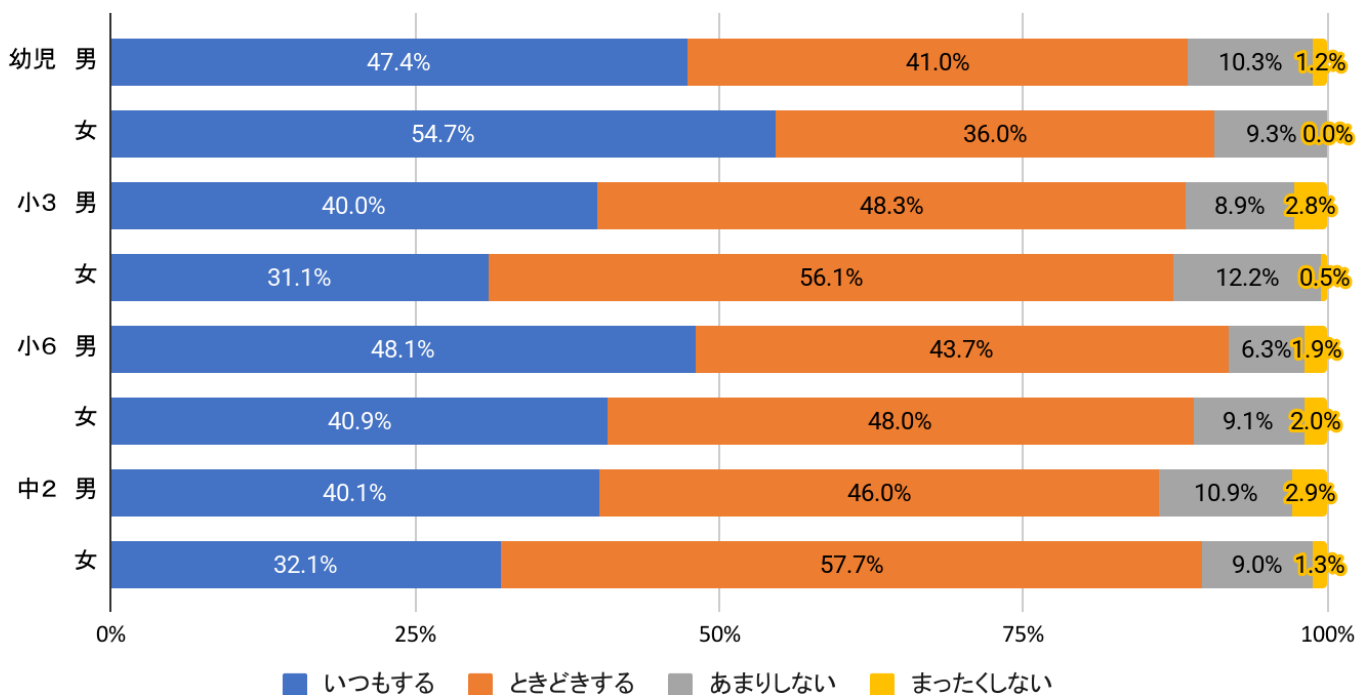


図 12-2 あいさつをしている割合男女別(2023年 男女)



生活について(2)

児童生徒の生活は、ICT 機器の普及によって利便性や情報へのアクセスが広がる一方で、読書や家庭学習といった落ち着いた取り組む学習活動の時間が減少している傾向が見られる。

参照：「13 スマートフォン・携帯電話、コンピュータの使用時間は学年が上がるにつれ増加している」「14 一週間の読書時間が減少し、スマホ等の使用時間が100分以上増加」

また、日常生活の満足感についてもやや低下傾向が見られることから、子どもたちの生活の質や心の充実について改めて考えていく必要がある。

参照：「16 『毎日が楽しい』『まあまあ楽しい』と答えた児童生徒は約3～10%減少している」

特に読書時間については、スマートフォン等の利用時間の増加と対照的に減少が顕著であるが、読書は子どもが言葉や考え方を広げ、想像力を育む大切な活動である。学校において読書の時間を確保したり、日常の学習の中で本に触れる機会を設けたりすることで、児童生徒が読書に親しむ姿が見られるという実践もあることから、読書時間は単に減少しているというだけでなく、きっかけや環境づくりによって広がる可能性をもつと考えられる。

また、家庭においても、子どもが読書に触れる機会や落ち着いた過ごす時間をつくることは重要である。必ずしも長時間の読書を求めるのではなく、保護者が子どもと本話題を共有したり、家庭の中に本に触れやすい環境を整えたりすることなど、小さな関わりの積み重ねが子どもの読書習慣につながると考えられる。

学校・家庭・地域がそれぞれの立場から子どもの生活を見守り、ICT 機器の活用と読書や学習活動とのバランスを意識した環境づくりを進めていくことが、児童生徒の豊かな学びと健やかな成長につながるものと考えられる。

生活について

13 スマートフォン・携帯電話、コンピュータの使用時間は学年が上がるにつれ増加している

スマートフォン・携帯電話の所持率を2018年と比べると、小3は減少しているが、小6は5.4%、中2は11.7%増加している。なかでも、中学2年生については全体の9割以上(中2 91.6%)がスマートフォン・携帯電話を所持している結果が得られた。コンピュータの所持率は小学3年生で約12%、小学6年生で4.5%、中学2年生で約10%それぞれ減少していることが分かった。GIGAスクール構想が始まり一人一台の学習端末を所持するようになったため、コンピュータの所持率が減少傾向にあるのではないかと。【図13-1】【図13-2】

スマートフォン・携帯電話の使用時間を2018年と2023年を比べると、小3は、平均時間が約7分増加。短時間利用が減り、1時間以上の利用が増加している。小学6年生では、平均時間が約36分増加。特に「2時間以上」の利用者が大幅に増えている。中学2年生では、平均時間が約46分増加。4時間以上の利用者が増加し、長時間利用傾向が顕著である。この結果から、年齢が上がるにつれて使用時間が長くなる傾向があり、全体的にデジタル機器の使用時間が増加していることがわかる。これは学習・娯楽・SNSなどの用途の広がりや、家庭でのデバイス環境の変化が影響している可能性があるのではないかと。【図13-3】【図13-4】

使用目的として、どの学年もゲームや動画を見ることに使用する児童が多い。また、LINEや趣味・動画を見る児童は、学年が上がるにつれて使用する時間が増えていることが分かった。【図13-5】

2時間以上使用している児童生徒が増え、動画やゲームなどの使用が多くみられるので、スマートフォン・携帯電話の使用目的について見直す必要があると思われる。【図13-5】

【質問内容】

(26) 自分のスマートフォン・携帯(けいたい)電話を持っていますか。

(27) コンピュータ【iPad(アイパッド)などのタブレット型も含(ふく)む】を持っていますか。

(28) スマートフォン・携帯(けいたい)電話・コンピュータ【iPad(アイパッド)などのタブレット型も含(ふく)む】を学校のある日、家で1日にどれくらいの時間、使いますか。

(29) スマートフォン・携帯(けいたい)電話・コンピュータ【iPad(アイパッド)などのタブレット型も含(ふく)む】で次のことをどのくらいしますか。

図1-1 スマートフォン・携帯電話の所持率

(平成30年と令和5年の比較)

(26) 自分のスマートフォン・携帯電話を持っていますか。

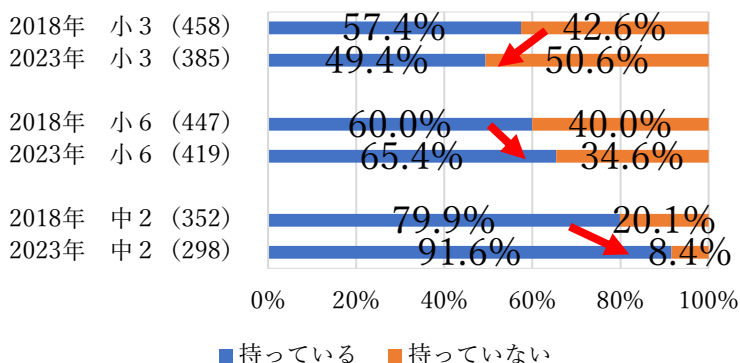


図1-2 コンピュータの所持率

(平成30年と令和5年の比較)

(27) コンピュータを持っていますか。

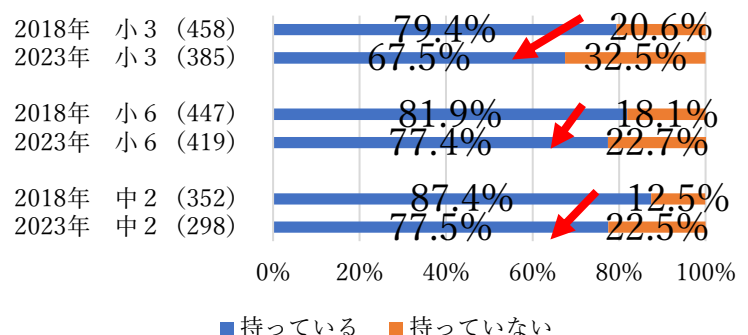


図 13-3 スマートフォン・携帯電話の使用時間（平成 30 年と令和 5 年の比較）

(28) スマートフォン・携帯（けいたい）電話・コンピュータを学校のある日、家で1日にどれくらいの時間、使いますか。

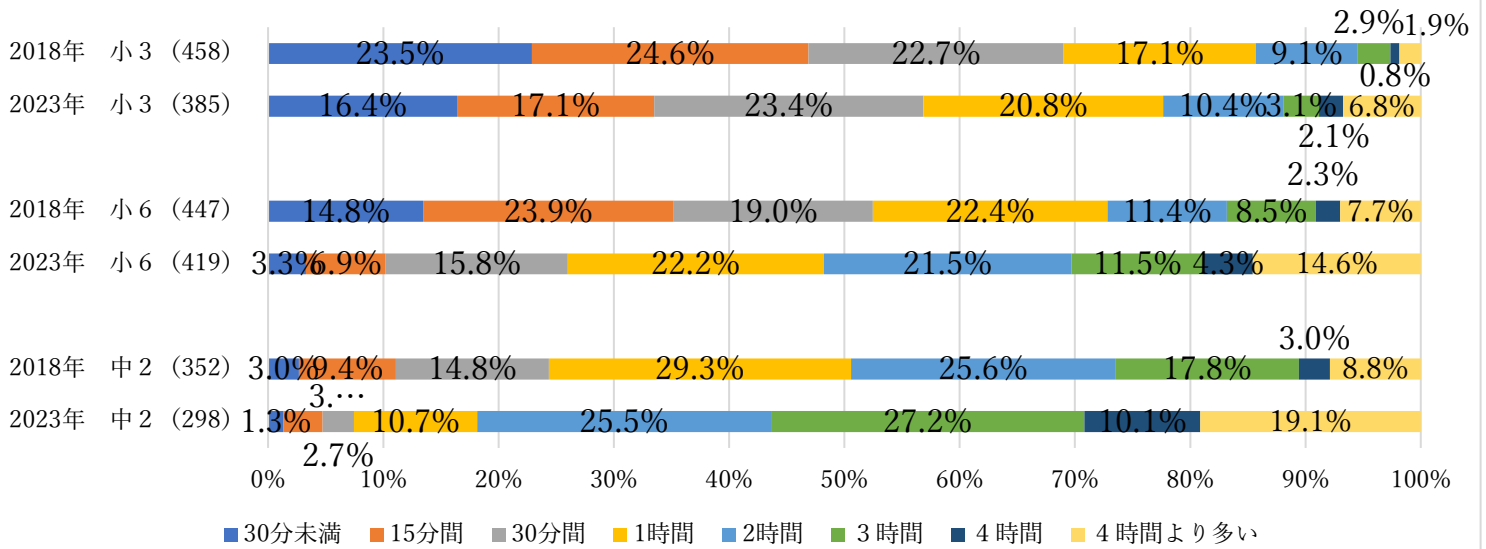
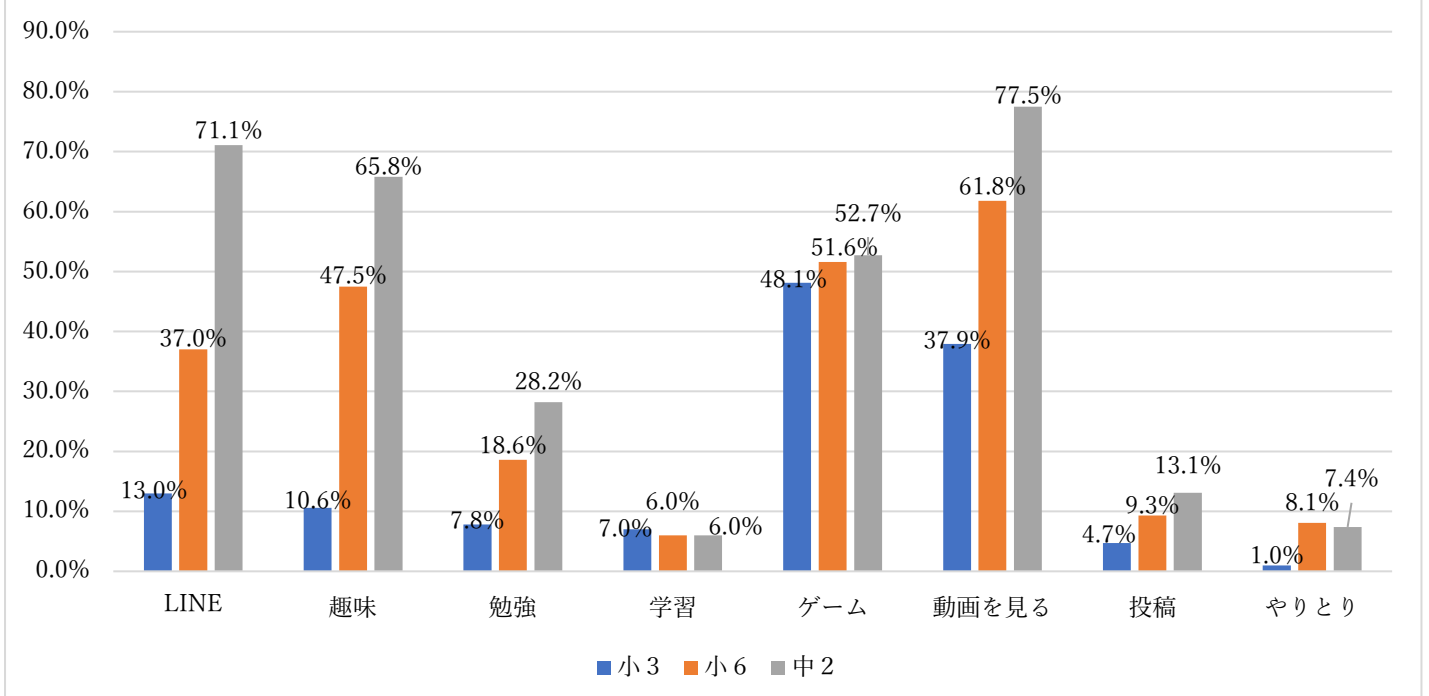


図 13-4 スマートフォン・携帯電話の使用時間（平成 30 年と令和 5 年の比較）平均

年	学年	平均使用時間(分)
2018年	小学3年生	34.5分
2023年	小学3年生	41.2分
2018年	小学6年生	63.3分
2023年	小学6年生	99.7分
2018年	中学2年生	97.8分
2023年	中学2年生	144.0分

図 13-5 携帯電話使用目的（令和5年）

(29) スマートフォン・携帯電話・コンピュータで次のことをどのくらいしますか。



14 一週間の読書時間が20分以上減少し、スマホ等の使用時間が100分以上増加

質問(20)から、2018年(平成30年)と2023年(令和5年)で比較した。【図14-1】一週間の読書時間で「全くしない」「15分間」と回答する児童生徒が小3で約11%、小6で約17%、中2で約31%全体的に増加している。また、(28)からスマートフォン等のICT機器を使用する時間が「4時間」「4時間以上」と回答している児童生徒が小3で約6%、小6で約9%、中2で約17%増加している。【図14-2】なかでも、「一週間読書をしない」を回答する児童生徒のスマホの使用状況を見ると、「4時間よりも多い」と回答する児童生徒が多い。【図14-3】これらのことから、児童生徒は、読書時間もスマホやタブレット端末を使用する時間が長くなってきていると言える。

また、それぞれの平均時間(概算)を【図14-4】で示した。2018年(平成30年)、2023年(令和5年)のどの学年でも、スマホ等ICT機器を使用する平均時間(1日)が読書時間(1週間)の倍以上の時間になっている。読書は一週間の調査に対してICT機器は一日の調査なので、児童生徒がいかにか読書をしていないかが分かる。

このことを深刻な問題と捉え、学校における読書の機会を取り入れるなどの工夫が必要である。ある学校では、宿題で読書を出すことにより、休み時間やすきま時間も読書する姿が見られている。読書するきっかけを作れば、児童の読書時間も増えるのではないかと思う。

【質問内容】

(20)1週間にどれくらいの時間、読書をしますか。

(28)スマートフォン・携帯(けいたい)電話・コンピュータ【iPad(アイパッド)などのタブレット型も含(ふく)む】を学校のある日、家で1日にどれくらいの時間、使いますか。

図14-1 (20)1週間にどれくらいの時間読書をしますか。(2018年と2023年の比較)

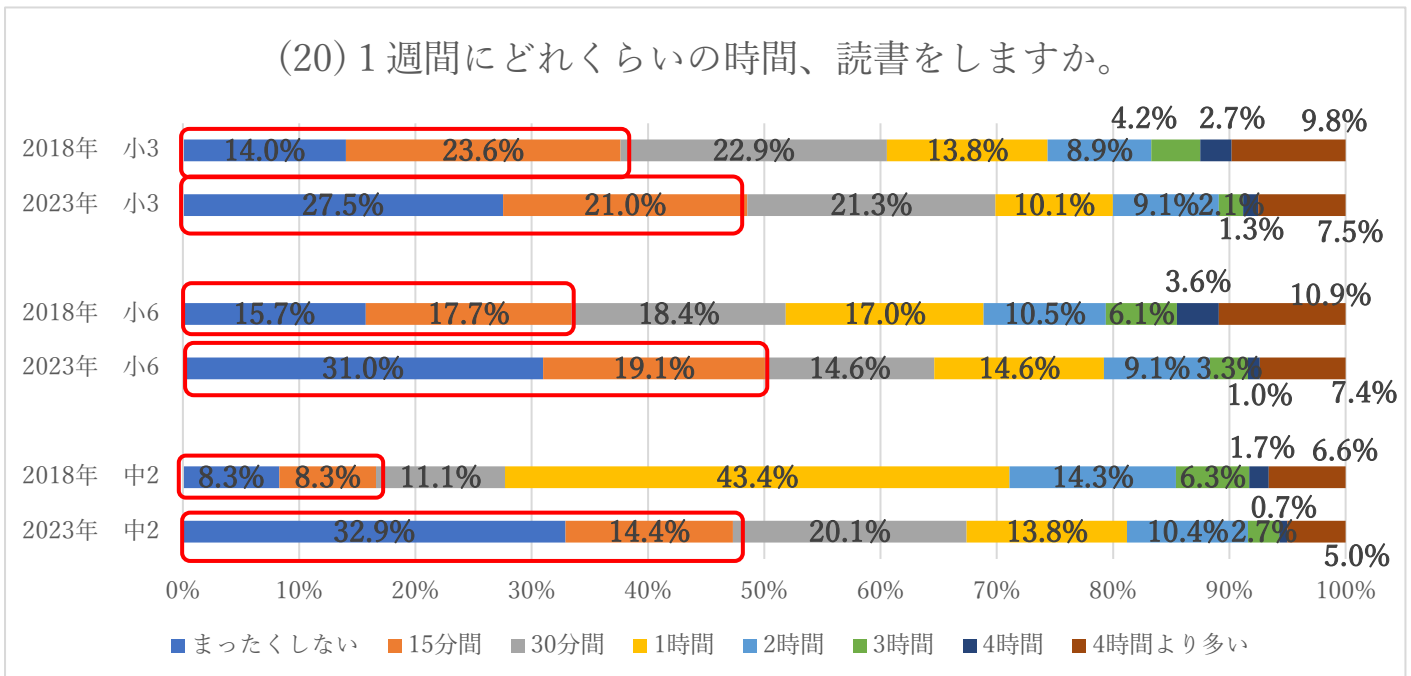


図 14-2 (28)学校のある日、家で1日にどれくらいの時間、スマホ等を使うか。(2018年と2023年の比較)

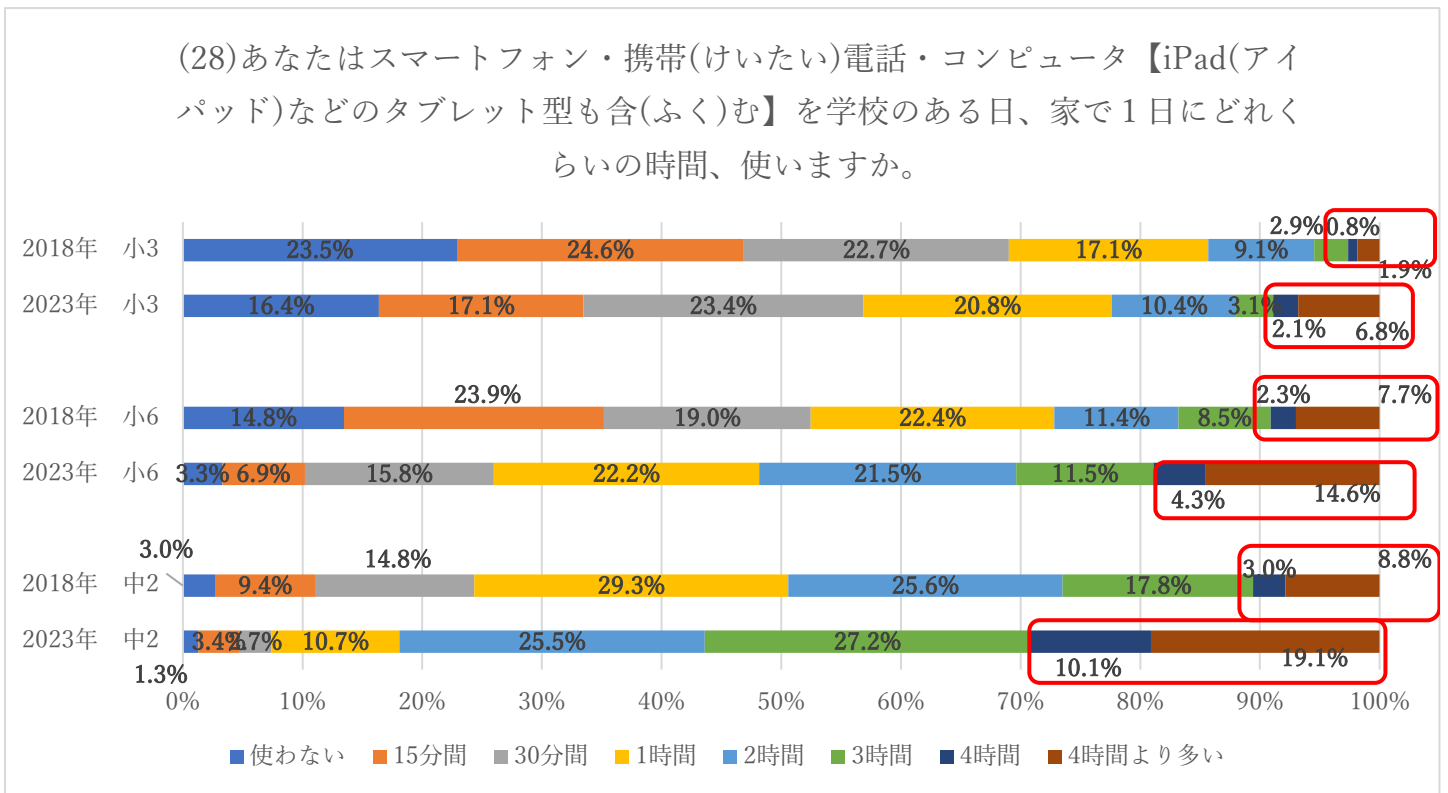


図 14-3 (20)と(28)のクロス集計:一週間読書をしない児童がどのくらいスマートフォン・携帯電話を使用するか(令和5年のデータ)

小学校3年

使用時間	使わない	30分間	1時間	2時間	3時間	4時間より多い
人数	18	19	20	10	5	18
比率	17.0%	17.9%	18.9%	9.4%	4.7%	17.0%

小学校6年

使用時間	使わない	30分間	1時間	2時間	3時間	4時間より多い
人数	7	10	27	28	14	33
比率	5.4%	7.7%	20.8%	21.5%	10.8%	25.4%

中学校2年

使用時間	使わない	30分間	1時間	2時間	3時間	4時間より多い
人数	2	1	4	21	27	31
比率	2.0%	1.0%	4.1%	21.4%	27.6%	31.6%

図 14-4 (20)と(28)の平均時間

(20)読書時間 一週間平均

	2018年度	2023年度
小3	約 70.2 分	約 55.5 分
小6	約 77.2 分	約 55.4 分
中2	約 78.0 分	約 47.3 分

※「4時間より多い」は 300 分としてカウント

(28)スマホ等タブレット端末使用時間 一日平均

	2018年度	2023年度
小3	約 60.3 分	約 72.4 分
小6	約 93.1 分	約 136.9 分
中2	約 139.6 分	約 184.8 分

※「4時間より多い」は 300 分としてカウント

(28)スマホ等タブレット端末使用時間 一週間平均

	2018年度	2023年度
小3	約 422.1 分	約 506.8 分
小6	約 651.7 分	約 958.3 分
中2	約 977.2 分	約 1293.6 分

※「4時間より多い」は 300 分としてカウント



15 学年が上がるにつれて「いじめが減っている」とは言い切れない

質問(33)(34)において、2018年(平成30年)と2023年(令和5年)で“いじめたことがある”“いじめられたことがある”はどちらも大きく変わりがなかった。また、2018年(平成30年)と2023年(令和5年)どちらも小3・小6・中2と学年が上がるにつれて“いじめられたことがある”が減っている。【図15-2】特に、小3の“いじめられたことがある”は、約10%減っている。

学年が上がるにつれて「いじめられたことがある」児童生徒が減ってはいるが、年齢などさまざまな要因から、いじめが減っているとは解釈しきれないと思う。

【質問内容】

(33) 現在(げんざい)の学年になってから、だれかをいじめたことはありますか。

(34) 現在の学年になってから、だれかにいじめられたことがありますか。

図15-1 現在の学年になってから、だれかをいじめたことはあるか。(2018年と2023年の比較、学年別)

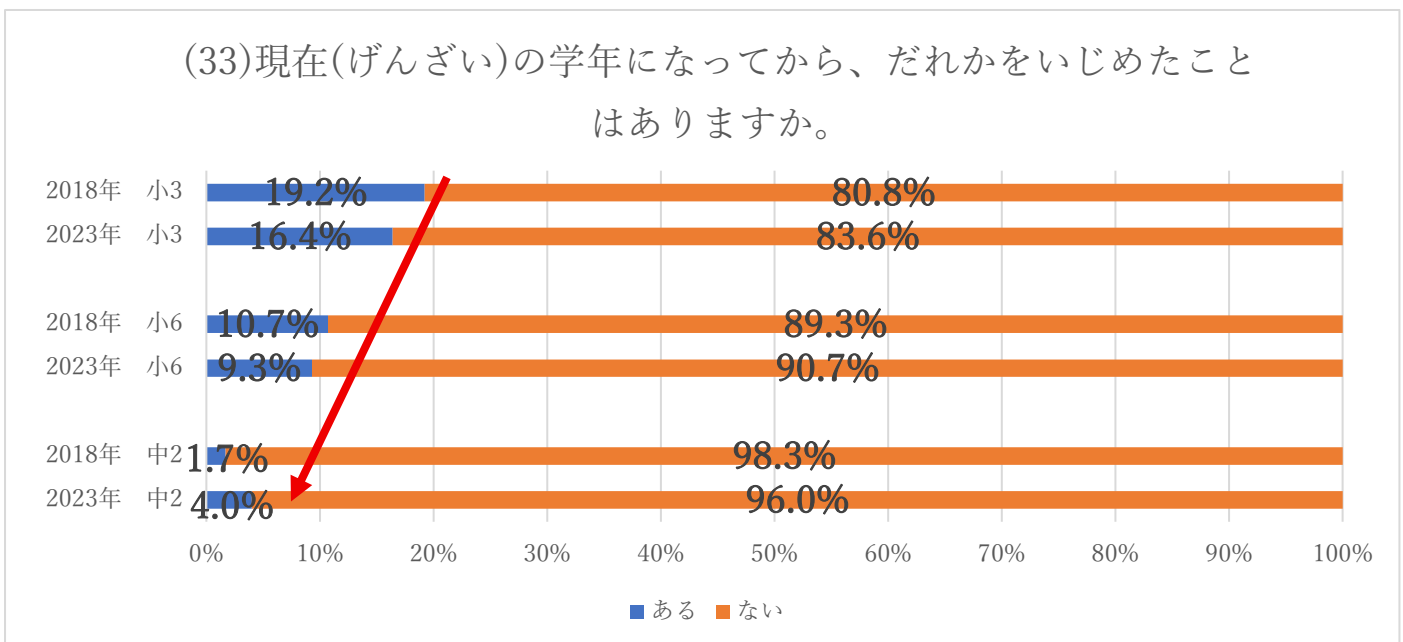
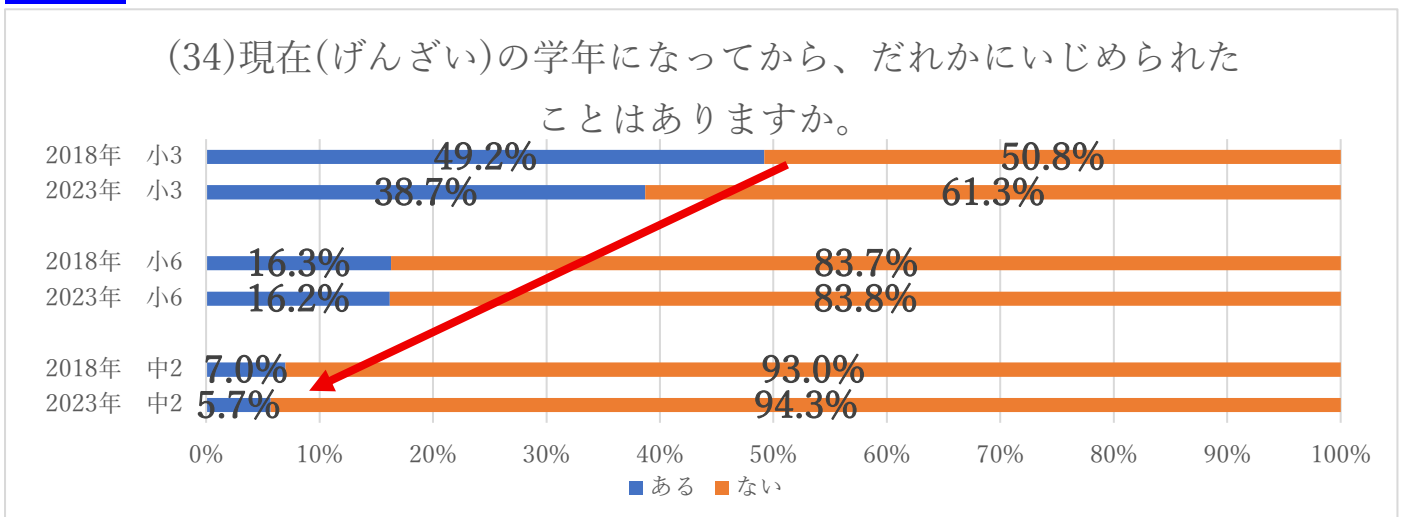


図15-2 現在の学年になってから、だれかにいじめられたことがあるか。(2018年と2023年の比較、学年別)



16 「毎日が楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童生徒は約3%~10%減少している

質問(35)(36)(37)から、2023年(令和5年)と2018年(平成30年)の調査において、【図16-1】では、「毎日が楽しいですか。」というアンケートを比較している。「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童生徒を合わせた数値を比較すると、小3で2.8%減、小6で5.4%減、中2で9.5%減少した。【図16-1】

質問(36)から、「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた理由をみると、2023年(令和5年)、2018年(平成30年)のどちらも1位は「仲の良い友だちがいるから」、2位は「クラス、学校が楽しいから」であった。【図16-2】2023年(令和5年)の中2は「クラス、学校が楽しいから」が4位(クラブ活動、部活動が楽しいからは2位)、小6と小3は2位となっており、学校が友だち関係を築きやすい場であることが、「毎日の楽しさ」を定めているようにみえる。また、「あまり楽しくない」「楽しくない」の理由を見た時にも、中2と小6は「クラス、学校が楽しくないから」が1位を、小3は「したいことができないから」「毎日、同じことのくりかえしだから」が1位を占めている。【図16-3】

このことから、児童生徒にとって一日の中で一番長く過ごす「学校」という場所が、毎日の楽しさに強い影響を及ぼしていることが分かるため、教職員をはじめ、学校に関わる大人は、児童・生徒が充実した学校生活を送れるようにすることが大切である。

【質問内容】

- (35) 毎日が楽しいですか。
 (36) 「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた理由は何ですか。
 (37) 「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた理由は何ですか。

図16-1 毎日が楽しいか、比較(2018年と2023年の比較、学年別)

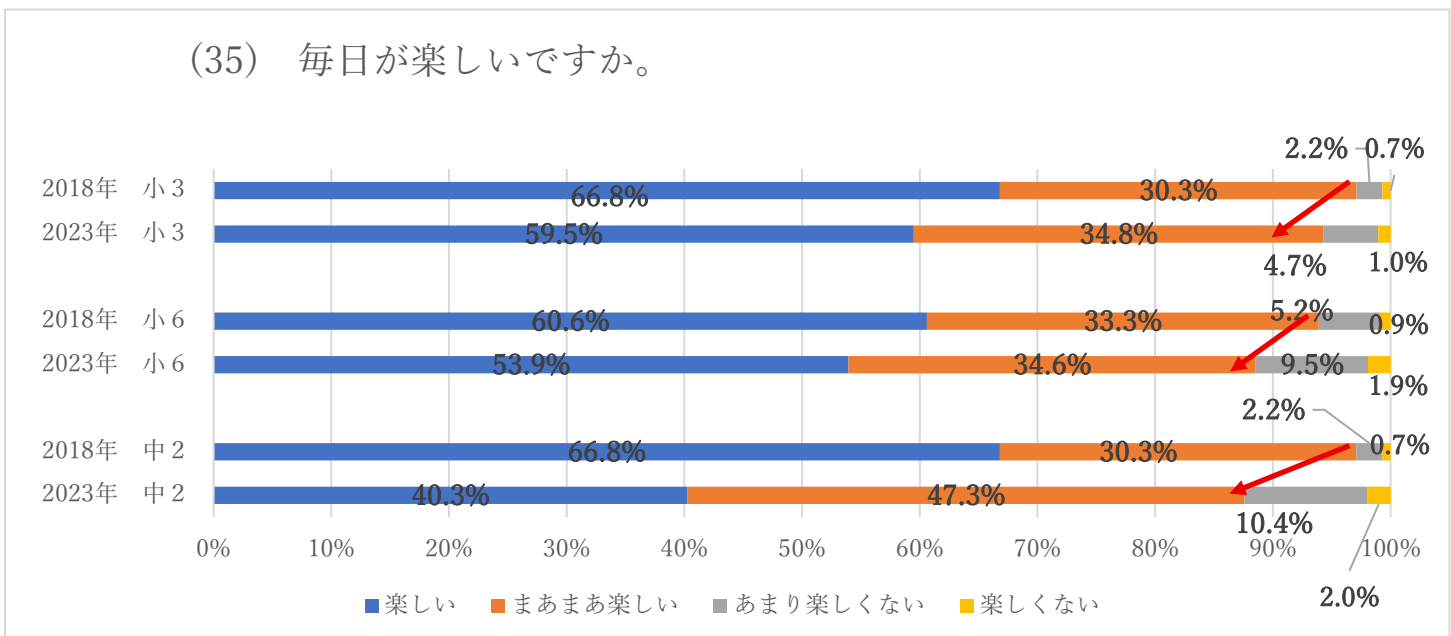


図 16-2 「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた理由(2018年と2023年の比較、学年別)

(36) 「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた理由は何ですか。

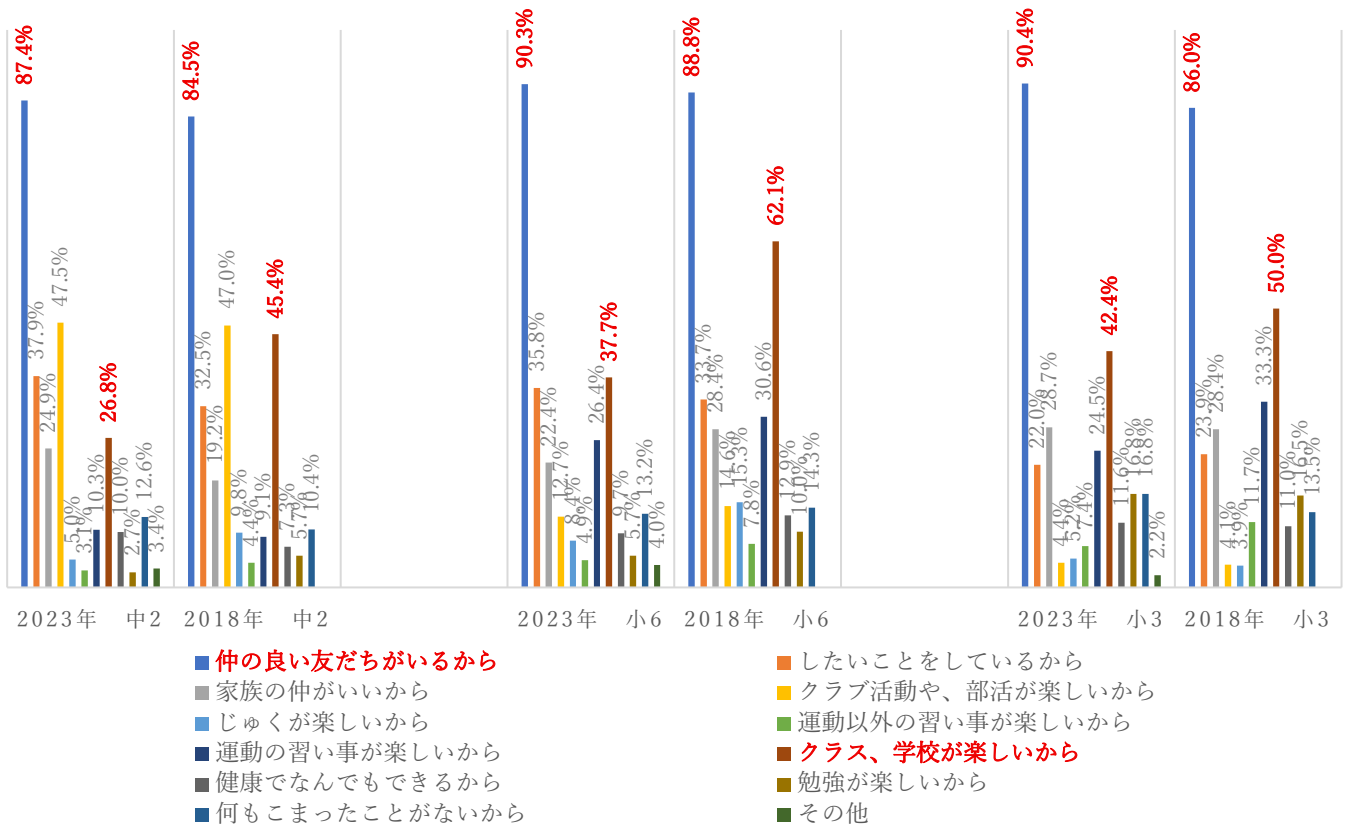
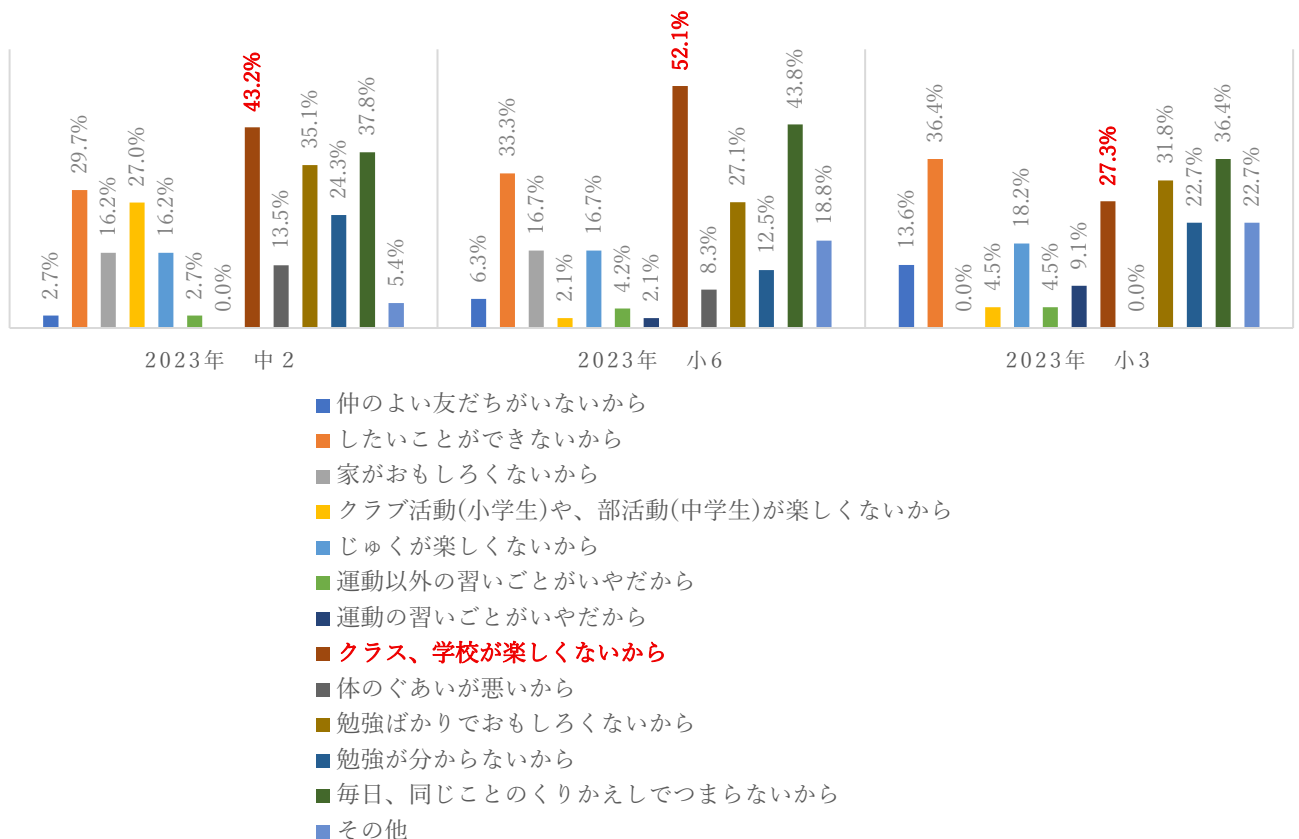


図 16-3 「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた理由(2023年、学年別)

(37) 「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた理由は何ですか。



学習・地域との関わりについて

本調査の結果から、児童生徒の生活や学習の在り方がこの 5 年間で大きく変化していることが読み取れる。

まず、学習状況については「二極化」が進んでいることが特徴的である。塾に通う割合は全体として減少しているが、学校外での学習時間を見ると、「まったくしない」「15 分程度」という層が増える一方で、「2 時間以上」学習する層も増えている。つまり、全体の学習時間が均一に減っているのではなく、学習に取り組む児童生徒とそうでない児童生徒との差が広がっていると考えられる。特に中学生ではその傾向が顕著であり、家庭環境や進路意識の違いが影響している可能性がある。

参照：「17 朝や放課後の学習時間は市内児童生徒で二極化している」

地域行事への参加については「いつも参加する」割合が減少し、「あまり参加しない」「まったく参加しない」が増加している。少子化や共働き世帯の増加、コロナ禍の影響などが背景にあると考えられるが、子どもの生活が地域中心から家庭中心へと変化していることがうかがえる。地域との関わりの減少は、社会性や多世代交流の機会の縮小にもつながる可能性がある。

参照：「18 地域のお祭りや行事への参加」

現在の児童生徒は、学習面でも生活面でも「個別化・多様化」が進んでいる可能性がある。今後は、学習習慣が弱い層への支援とともに、子どもが「おもしろい」「わかる」と感じられる授業づくりを進めることが重要である。また、読書や地域活動など、学校外での豊かな経験をどのように保障していくかが課題である。

17 朝や放課後の学習時間は市内児童生徒で二極化している。

また、全国的に学習時間は減少傾向にある

質問(13)から、2018年(平成30年)と2023年(令和5年)の通塾状況を比較した。塾へ通っているという小3は12%、小6は9%、中2は8%減ったことが分かる。【図17-1】また、(15)から、塾に通う児童生徒の中でも、中2以外は一週間のうちに1日、2日の割合が増え、日数が全体的に減少傾向にあることが分かる。【図17-2】

質問(19)から、学校がある日の放課後の勉強時間は、「全くしない」や「15分間」を選んだ児童生徒は、2018年と2023年を比べて全学年増えており、全体的な勉強時間が減っている傾向が分かる。【図17-3】一方で、小3と中2では2時間以上学習している児童・生徒が増えていることが分かる。そこで、各学年の平均値を出すと、小3と中2の平均値は若干の増加がみられた。【図17-4】このことから、学校外での児童生徒の学習時間が二極化していることが伺える。

【図17-5】では全国と鎌倉市を比較するため、中学生の学習状況と全国学力・学習状況調査のアンケート結果を載せた。市内ほど顕著な学習時間の二極化はみられなかったが、市内同様、学習時間が5%ほど減少していることは分かった。

学習時間が減少している要因までの分析に至らなかったが、学習時間が減少することで児童生徒の学力に影響があるのか、引き続き注視していく必要がある。

【質問内容】

(13) 学習塾へ行っていますか。(家庭教師を含む)

(15) 塾へ行くのは一週間のうち何日ですか。

(19) 学校がある日の朝や放課後、家・友だちの家・図書館などで、普段1日にどれくらいの時間、勉強をしていますか。

図17-1 塾に通っているか。(2018年と2023年の比較)

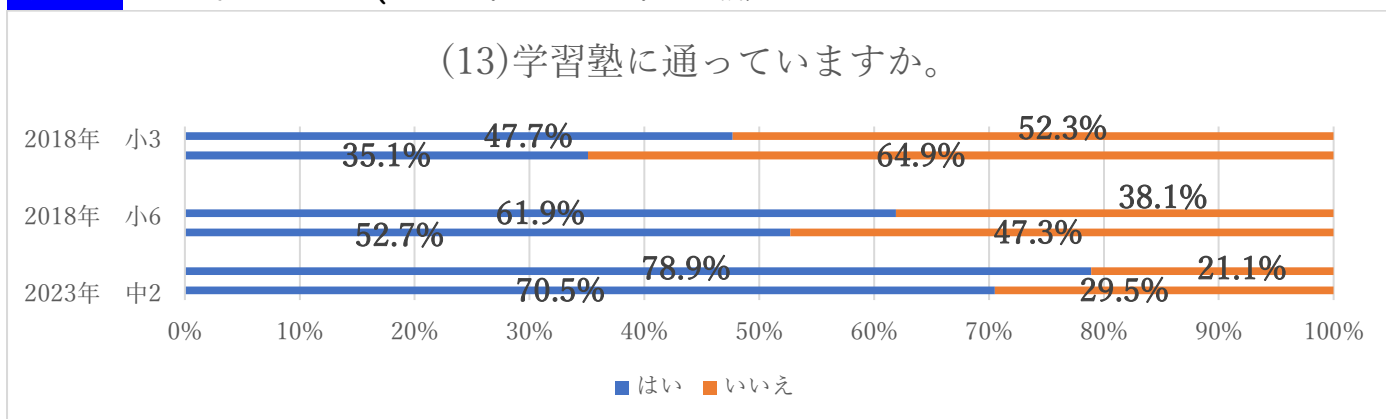


図17-2 塾へ行くのは一週間のうち何日か。(2018年と2023年の比較)

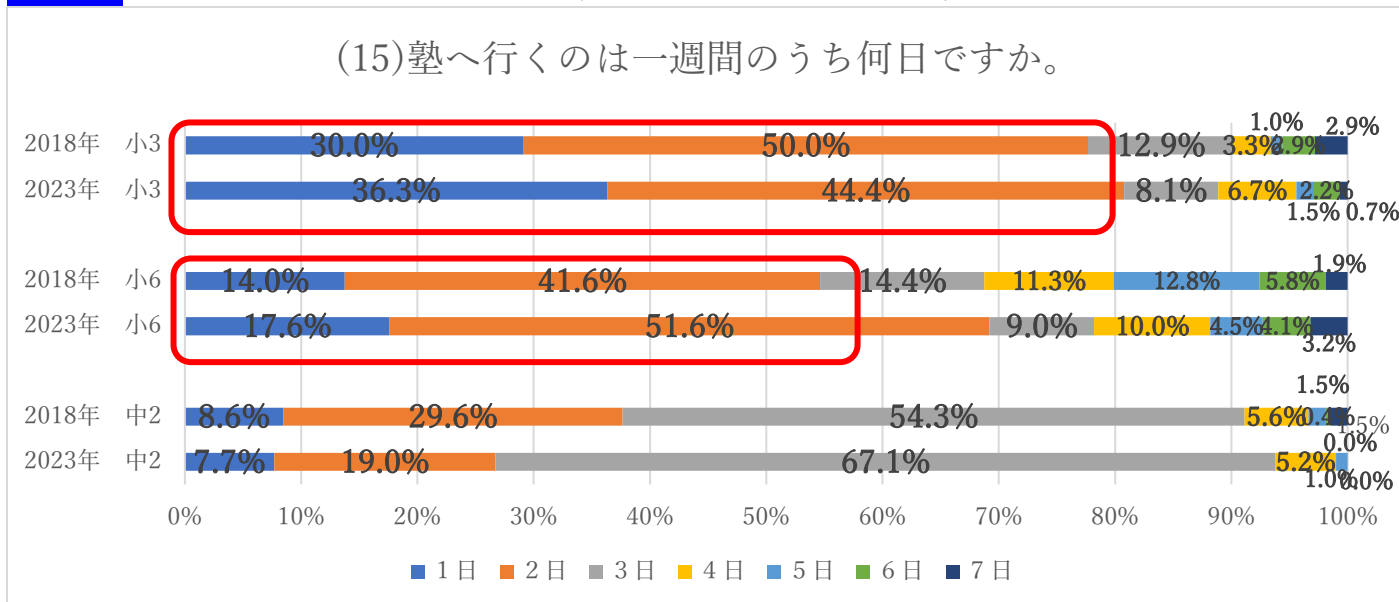


図 17-3 学校がある日の朝や放課後、家・友だちの家・図書館などで、普段1日にどれくらいの時間、勉強をするか。(2018年と2023年の比較)

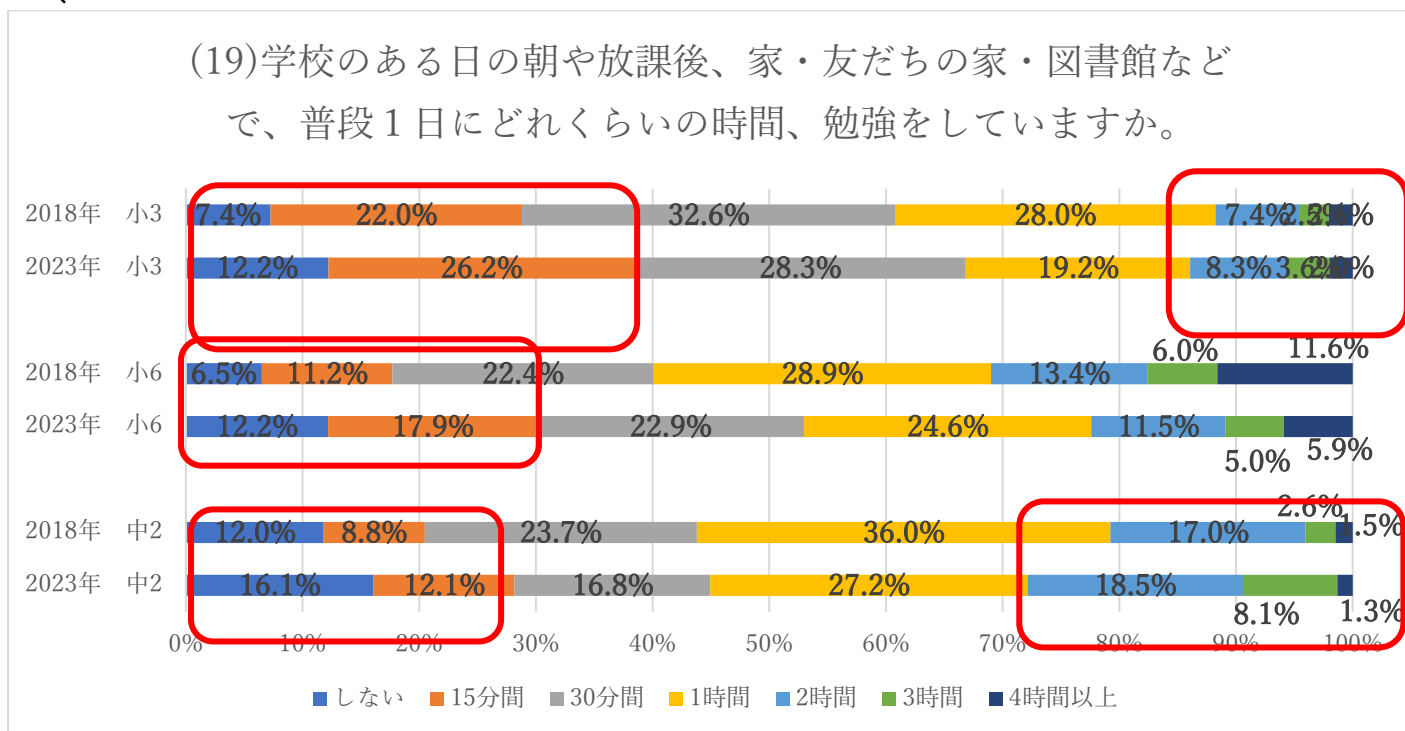


図 17-4

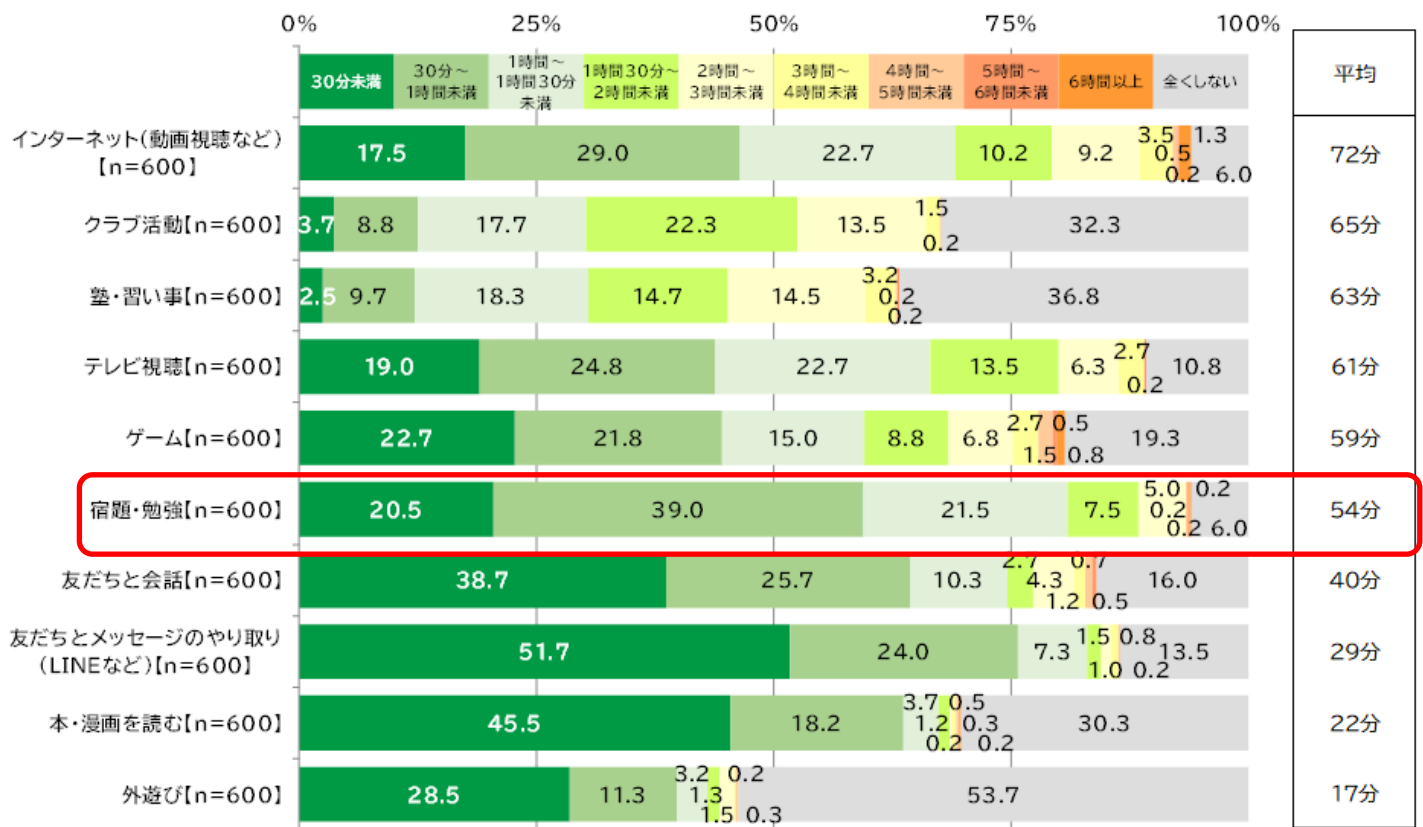
学年	2018年 平均時間	2023年 平均時間	増減(分)
小学3年生	43.5分	45.4分	+1.9分
小学6年生	80.5分	61.3分	-19.2分
中学2年生	58.7分	63.1分	+4.4分

※n=2018年小3→458名、小6→447名、中2→352名／2023年小3→385名、小6→419名、中2→298名
また、「4時間以上」の回答は240分として算出。

図 17-5 全国の児童・生徒の日々の学習状況資料

○中学生の学習状況 参考:学研教育総合研究所 2023年10月調査

◆放課後の過ごし方について、1日にどれくらいの時間を費やしているか教えてください。(それぞれ1つ)



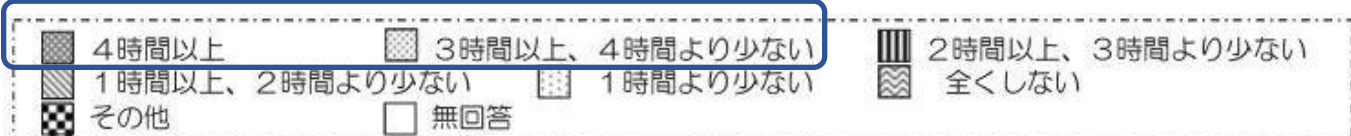
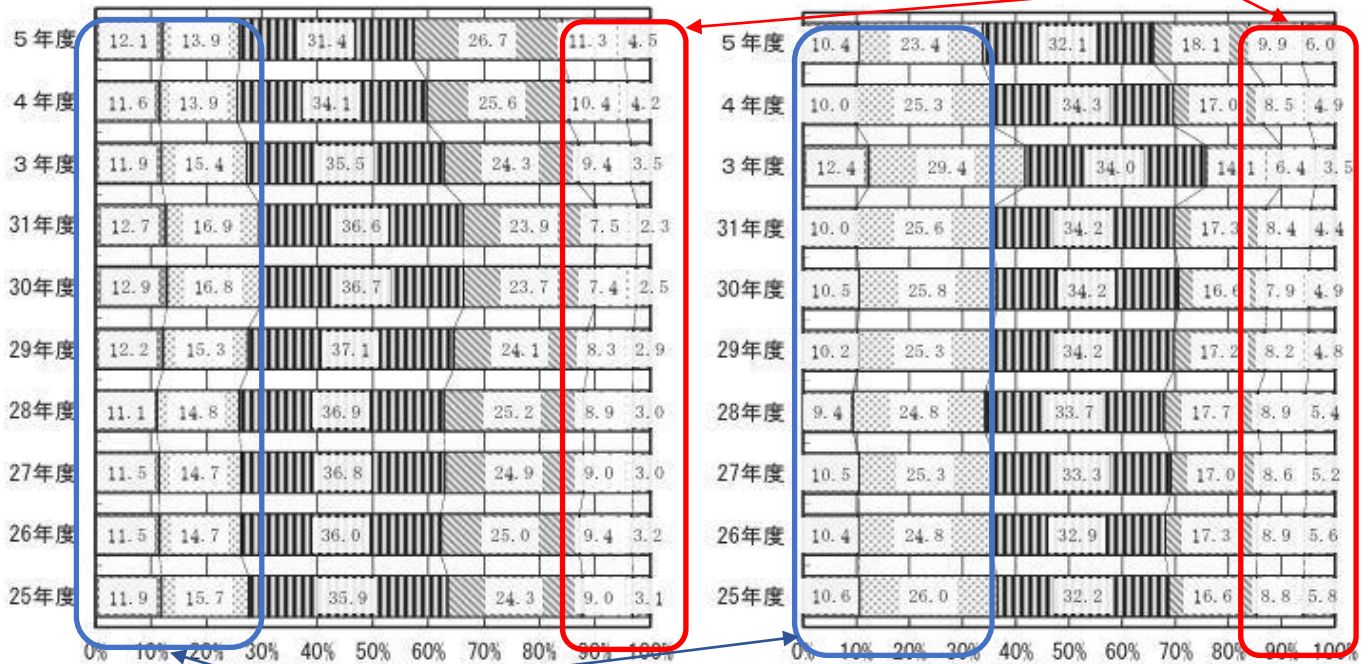
©学研教育総合研究所

○小6の学習状況 参考:令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書 質問紙

【小学校】

【中学校】

全くしない
1時間より少ない



【出典】・学研教育総合研究所・国立教育政策研究所 検出日:2025年7月28日

18 地域のお祭りや行事への参加

【幼児・児童生徒】

質問(21)の2018年と2023年の調査から幼児の全体の傾向として、「いつも参加している」割合は減少。一方、「ときどき参加する」の割合は増加している。

質問(24)児童生徒の調査では、地域のお祭りや行事などの活動に「いつも参加する」という回答が減少し、「あまり参加しない」「まったく参加しない」と回答する児童は増加していることがわかった。また、「いつも参加する」と回答する幼児、児童生徒ともに年々5%ずつ減少している。少子化が進み、共働き世帯が増え、地域の行事の運営を担う保護者の負担が増し、担い手不足に陥る上に、コロナ禍で活動が制限されたことが背景にあると分析できる。このことから、現代になるにつれ、地域のお祭りや行事に参加する児童生徒は減ってきていると考えられる。

幼児、児童生徒の回答から、地域行事への参加スタイルが「定期的・継続的」から「選択的・機会的」に移行しつつあり、家庭の多様な生活スタイルに合わせた地域行事の在り方が求められているといえる。

【質問内容】

(21) 地域のお祭りや行事に参加しますか(幼児)

(24) 地域のお祭りや行事に参加しますか(児童生徒)

図 18-1 地域の活動への参加について(2018年と2023年の比較、幼児・小3・小6・中2 全体)

